

医学部における平成20年度実績 教員個人評価の 集計・分析ならびに自己点検評価報告

1. 個人評価の実施経過

平成21年

- 2月16日 (平成20年度第4回医学部評価委員会)
平成20年度医学部個人評価の様式について審議、決定。
- 2月23日 医学部全教員を対象に、平成20年度実績個人評価の実施説明文(資料1)を送付し、平成21年度個人目標申告書(資料6)、平成20年度活動実績報告書(資料4)及び自己点検・評価書(資料5)の作成・提出を依頼。
- 3月31日 提出締め切り
- 4月1日 各講座グループ長へ、平成20年度実績教員グループ評価の確認依頼。
(未提出グループは除く)
- 5月27日 グループ評価提出締め切り
- 8月18日 平成20年度実績教員個人評価結果を、各講座等長を経由して教員個人に通知。

2. 実施の概要

- (1) 実施対象： 医学部全教員のうち、平成20年度に在籍していた医学科基礎系51人、臨床系158人、看護学科30人、地域医療教育研究センター7人、中央診療部門24人の計270人。

表1. 職域、職種別の対象者人数と個人評価調査回答数

(地域医療教育研究センター、中央診療部門の教員は、それぞれ医学科基礎系、臨床系の職域区分に含める)

職域・職種	対象者数	調査回答数	回答率%
医学科基礎系 教授	20	19	95
准教授・講師	14	14	100
助教	23	23	100
臨床系 教授	20	20	100
准教授・講師	65	65	100
助教	97	92	94
看護学科 教授	7	7	100
准教授・講師	11	11	100
助教	11	11	100

- (2) 実施組織： 医学部評価委員会(医学部長1、副医学部長2、病院長1、医学科教授6、看護学科教授1、事務部長1の計11名)

(3) 実施内容と方法

1) 医学部の実施基準・指針

本学の「職員の個人評価に関する実施基準および指針」に基づき、「佐賀大学医学部における職員の個人評価に関する実施基準」(資料2)ならびに「医学部における個人達成目標及び重み配分の指針(教員用)」(資料3)を定め、これに準じて実施した。

なお、医学部の実施基準では、本学の実施基準に以下の点を加えていることが特徴といえる。
診療の評価領域。

各教員の「活動実績報告書」及び「自己点検・評価書」の提出、ならびに「個人評価結果」

の通知は講座等の長を経由して行う。

講座等の長は職員の活動実績を各講座等においてとりまとめ、評価し、講座等の活動改善の資料とする。

2) 評価項目と評価点

評価領域ごとの評価項目および評価点は、「活動実績報告書」(資料4)に示す内容で実施した。評価点は加算方式で、評価領域ごとの上限(満点)は設けず、評価領域間での満点の統一も行わない方式になっている。

3) 各教員による活動実績報告書の作成と自己点検評価

各教員は、各自の活動を「活動実績報告書」に取りまとめ、それと前年度に設定した平成20年度の活動目標と重み配分を基に自己点検評価を行った結果を「自己点検・評価書」(資料5)に記述して提出した。

4) 平成21年度の活動目標と重み配分の設定

上記の平成20年度実績の点検評価とは別に、各教員は平成21年度の活動目標と重み配分を21年度用の「H21個人目標申告書」記入して提出した。これに関しては20年度に在籍していなかった教員39人にも提出を求めた。

5) 活動実績の集計と分析

医学部の職域が多様であり、また、その職種によっても求められる活動が異なることから、教員を 医学科基礎系、臨床系、看護学科の3つの職域に区分し、更に必要に応じて、a 教授、b 准教授・講師、c 助教の職種ごとに分けて、活動実績の集計と分析・評価を行った。

6) 「個人評価結果」の通知内容

当該教員の評価領域ごとの評価点を、該当する職域・職種別グループ教員の評価点とともにグラフで表し、当該教員の活動状況の位置付けを示す「個人評価結果表」と、当該教員の活動目標達成に関わる自己評価に対する評価委員会コメントを個人評価結果として通知した(資料7)。

3. 各評価領域における評価項目と活動実績の集計・分析

(1) 教育の領域

1) 評価項目と評価点：ここでは以下の項目について点検し、評点化を行った。

[1] 学部教育の実績： 講義・実習・PBL、臨床・臨地実習、選択コース・セミナーの区分で担当時間数を点数化し、主題科目担当や学生による授業評価の高いものには加算点を追加。

[2] 教育改善の取り組み： 取り組みの実績を自由記載し、取り組みの有無・程度により評点化。

[3] 教育研修(FD)への参加： 参加回数、時間を評点化。

[4] 大学院教育の実績： 大学院授業の担当時間数、研究指導した学生数、学位取得者の指導数、学位論文審査件数をそれぞれ評点化。

[5] 学内におけるその他の教育活動： 全学または全学部的な講演やオスキー評価者などの時

間数を評点化。

[6] 学生への生活指導等：チューター，クラブ顧問，オフィスアワー等による指導実績の有無を評点化。

2) 集計結果：上記評価項目の評点と，それらを合計した教育領域の評価点の職域・職種別平均値を表2に示す。

表2．教育の領域，評価項目の平均評価点

職域・職種 区分		教育領域	各 評 価 項 目 の 平 均 評 点								
		平均 評価点数	[1] 講義等	[1] 臨実習	[1] 選択コ	[2] 改善	[3] F D	[4] 院授業	[4] 院指導	[5] 他教育	[6] 学支援
基礎 医学 科基	教授	118.2	51.9	4.8	24.1	2.6	2.2	6.9	24.2	1.8	1.0
	准教授・講師	69.9	41.1	1.2	4.4	2.4	2.9	3.4	14.2	0.9	0.7
	助教	67.7	28.0	1.8	17.9	1.8	1.1	0.5	18.2	0	0.3
臨床 系	教授	104.9	16.9	40.0	8.5	1.0	1.3	3.7	31.1	1.6	0.7
	准教授・講師	60.4	13.7	28.7	6.1	1.8	0.4	1.2	6.2	1.8	0.3
	助教	53.4	15.2	36.0	2.2	1.2	0.1	0.0	1.8	1.4	0.1
看護 学科	教授	232.4	90.2	32.4	7.0	2.7	4.1	51.4	39.3	1.9	3.4
	准教授・講師	237.4	110.7	92.3	8.0	2.8	6.8	9.5	6.0	0.0	2.3
	助教	217.6	108.2	85.8	3.4	0.9	3.9	10.5	4.1	0.0	0.7

評価項目実績の概要：

- [1] 学部教育の実績評点は，凡そ 30 時間の講義担当時間数が 10 点に相当するもので，看護学科では，講義に加えて臨地実習の担当が多く高点数となっている。また，教育領域の総評価点のうち 7 ～ 8 割以上を[1]の講義・実習等に関する評点が占めるため，学部教育の分担実績が教育領域の評価点を左右する結果になっている。
- [2] 教育改善の取り組みについては，医学科基礎系 56 人中 51 人 91%（19 年度 98%，18 年度 90%，17 年度 84%），臨床系 177 人中 140 人 79%（19 年度 75%，18 年度 84%，17 年度 86%），看護学科 29 人中 25 人 86%（19 年度 96%，18 年度 100%，17 年度 96%）が，何らかの取組みを行っているとして自己評価しており，その内容は，授業配布資料の改善・工夫，パワーポイント等による授業方法の工夫，P B L チューター指導の工夫，病棟実習の工夫などが多い。
- [3] F D への参加では，医学科基礎系 56 人中 39 人 69%（19 年度 57%，18 年度 64%，17 年度 51%），臨床系 177 人中 76 人 42%（19 年度 37%，18 年度 42%，17 年度 37%），看護学科 29 人中 29 人 100%（19 年度 100%，18 年度 100%，17 年度 78%）の者が 1 回以上参加しており，その主なものは，医学・看護学教育ワークショップ，P B L 講習会，入試面接セミナーなどである。
- [4] 大学院教育の評点は，実験指導などの貢献も評点化しているので，以前から助手にもある程度の評点が付いていたが，19 年度から助教となり大学院教育にも担当教員として参画することになった効果が，助教の大学院授業評価点，大学院指導評価点として表れている。
- [5] 学内におけるその他の教育活動は，全体で 109 件（19 年度 120 件，18 年度 119 件，17 年度 85 件）で，学内講演会の講師やオスキー評価者としての貢献などがある。
- [6] 学生への生活指導等では，学年別及び特別チューター 148 人（全教員の 56%），オフィスアワー等による指導 97 人（全教員の 37%），クラブ顧問 40 人の実績が提出されている。オフィスアワー等により指導を受けた学生の延べ人数は 2,004 人（医学部学生収容定

員：学部 835 人，大学院 182 人，計 1,017 人の 2.0 倍の人数）で，その種別は，一般学生 93.3%，留学生 1.5%，社会人 5.1%，障害者 0.05%となっている。

相談の内容別では，学修相談 79.0%，生活相談 6.7%，進路相談 10.8%，その他 3.7%で，相談方法でみると，オフィスアワー（恒常的に時間を設定しているもの）による面談は全体の 15.2%であるが，時間を設定せずに随時対応した面談が 67.4%で大半を占め，メールによる相談が 19.6%あった。

3) 教育領域全体の状況

- 授業に関しては，職域・職種の特性に相応の教育活動が行われているが，看護学科では全体的に教育負担が高い。
- 全体で 78.1%の教員が何らかの教育改善の取り組みを行っており，更なる取り組みが望まれる。
- F D への参加率は全体で 49.6%（19 年度 48.4%，18 年度 54.7%，17 年度 46%）で，前年度より微増している。

(2) 研究の領域

1) 評価項目と評価点：ここでは以下の項目について点検し，評点化を行った。

- [1] 著書，論文等の実績： 著書，論文等の発表数とインパクトファクターを点数化。
- [2] 学会発表等の実績： 学会発表等の数を学会規模，一般発表，招待発表とに分けて評点化。
- [3] 学会への貢献： 学会等の主催，学会役員等の実績を評点化。
- [4] 学術等に関する受賞： 受賞の有無を評点化。
- [5] 科学研究費等補助金の申請・獲得： 代表者としての申請実績と獲得実績を評点化。
- [6] 特許の申請・取得状況： 申請あるいは取得の有無を評点化。

2) 集計結果：上記評価項目の評点と，それらを合計した研究領域の評価点の職域・職種別平均値を表3に示す。

表3．研究の領域，評価項目の平均評価点

職域・職種 区分		研究領域	各 評 価 項 目 の 平 均 評 点					
		平均 評価点数	[1] 著書論文	[2] 学会発表	[3] 学会貢献	[4] 受 賞	[5] 科研費	[6] 特 許
系 医 学 科 基 礎	教授	40.6	15.0	12.1	5.6	0.0	7.1	0.8
	准教授・講師	32.7	8.2	11.0	2.5	2.9	7.2	1.1
	助教	20.2	6.5	6.3	0.2	1.7	4.5	0.9
臨 床 系	教授	97.9	22.4	34.1	34.8	2.5	4.4	0.3
	准教授・講師	34.9	10.6	16.7	4.2	0.9	2.5	0.0
	助教	13.0	3.5	6.1	0.9	0.8	1.4	0.3
学 看 科 護	教授	23.6	5.0	8.3	5.5	1.4	3.3	0.0
	准教授・講師	12.9	1.2	4.9	2.9	0.0	3.8	0.0
	助教	6.5	0.2	2.6	2.1	0.0	1.5	0.0

評価項目実績の概要：

- [1] 平成 20 年の著書総数は和文 120，英文 10，合計 130（19 年 98，18 年 174，17 年 204，16 年 235）で，論文総数は，和文 439，英文 312，合計 751（19 年 688，18 年 775，17 年 551，16 年 668）であった。
- [2] 国際及び全国規模の学会発表総件数は，1178（19 年 1147，18 年 955，17 年 745，16 年 766）で，その内訳は，国際的学会 203（19 年 171，18 年 190），全国規模の学会 975（19 年 976，18 年 765）で，この他に，地方会規模の学会発表が 491（19 年 397，18 年 395），その他の集会等での発表が 308（19 年 171，18 年 556）件であった。
- [3] 学会への貢献では，全国規模の学会・研究会の開催が 12（19 年度 6，18 年度 1，17 年度 2）件，地方会規模の学会・研究会等の主催が 99（19 年度 85，18 年度 66，17 年度 55，16 年度 48）件あった。
- [4] 学術等における受賞に関しては，18（19 年度 10，18 年度 6，17 年度 8，16 年度 8）件の学会賞や優秀研究賞の受賞があった。
- [5] 科学研究費補助金の申請が 242（19 年度 213，18 年度 247，17 年度 230，16 年度 186）件あり，採択件数は，継続 45（19 年度 47，18 年度 47，17 年度 46，16 年度 43）件と合わせて 63（19 年度 83，18 年度 78，17 年度 85，16 年度 78）件あり，127,870,000 円（前年度比-19,380,000 円，19 年度 147,250,000 円，18 年度 134,855,000 円，17 年度 152,414,000 円，16 年度 133,800,000 円）の助成を受けた。

その他に、厚生労働省科学研究費補助金が代表 2 件、分担 20 件（19 年度代表 2・分担 16 件、18 年度代表 3・分担 21 件、17 年度代表 2・分担 22 件、16 年度代表 3・分担 12 件）で、計 54,217,000 円（前年度比-3,142,000 円、19 年度 57,359,000 円、18 年度 66,985,000 円、17 年度 45,948,000 円、16 年度 51,397,000 円）の助成を受けた。

[6] 特許に関しては、9（19 年度 14、18 年度 9、17 年度 2、16 年度 6）件の申請・取得があった。

3）研究領域全体の状況

- 著書・論文数の研究業績を前年度と比較すると、著書数が + 32 で、17 年度からの減少傾向に回復の兆しが現われた。論文数は前年より + 63 で、これまでに業績数が多かった 18 年度レベルに近づいている。
- 学会発表総件数は、国際的学会が前年度より + 32 と増え、地方会規模の発表も + 94 と増えている。
- 科学研究費補助金の申請件数は前年度より + 29 であったが、採択件数で - 20 件、19,380,000 円の減であった。厚生労働科学研究費補助金は前年度より分担件数が + 4 であるが、金額で 3,142,000 円の減になっている。

(3) 国際・社会貢献の領域

1) 評価項目と評価点：ここでは以下の項目について点検し，評点化を行った。

- [1] 国際交流に関する実績： 外国人研究者・留学生等の受入件数，公務による国際交流事業等の実績を点数化。（学会等の海外渡航は評点には加えない）
- [2] 海外共同研究： 実績件数を評点化。
- [3] 海外技術協力・支援： 実績件数を評点化。
- [4] 国内での共同研究・受託研究： 実績件数を評点化。
- [5] 学外における教育活動： 公開講座，出前授業，講演，講習会，非常勤講師等の件数を評点化。
- [6] 国・地方自治体の各種委員会・審議会委員など： 実績件数を評点化。

2) 集計結果：上記評価項目の評点と，それらを合計した国際・社会貢献領域の評価点の職域・職種別平均値を表4に示す。

表4．国際・社会貢献の領域，評価項目の平均評価点

職域・職種 区分		国際・社会 貢献領域	各 評 価 項 目 の 平 均 評 点					
		平均 評価点数	[1] 国際交流	[2] 海外共研	[3] 海外技協	[4] 国内共研	[5] 学外教育	[6] 自治体
基礎 医学 科 基	教授	20.3	1.4	2.5	0.0	5.9	7.2	3.3
	准教授・講師	16.8	1.8	0.2	0.7	4.8	7.3	1.9
	助教	8.8	0.0	1.2	0.7	2.0	4.8	0.2
臨床 系	教授	34.2	1.6	0.9	0.3	4.9	13.3	13.4
	准教授・講師	12.4	0.3	0.3	0.2	1.7	7.3	2.5
	助教	4.4	0.1	0.7	0.1	1.1	2.2	0.3
看護 学	教授	21.7	2.4	0.4	0.7	1.1	12.0	5.0
	准教授・講師	25.7	0.0	0.0	0.0	0.5	22.6	3.5
	助教	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	0.2

評価項目実績の概要：

- [1] 国際交流のうち，外国人研究者の受入は長期・短期を合わせて 17（19 年度 14，18 年度 22，17 年度 10，16 年度 10）人，国費及び私費留学生の受入が 15（19 年度 7，18 年度 21，17 年度 12，16 年度 11）人，交換学生等が 7（19 年度 6，18 年度 4，17 年度 1，16 年度 6）人であった。
- [2] 海外共同研究は全体で 60（19 年度 67，18 年度 64，17 年度 46，16 年年度 28）件あり，相手は北米 37（19 年度 47，18 年度 42，17 年度 30，16 年度 19），欧州 14（19 年度 12，18 年度 14，17 年度 7，16 年度 3），アジア 7（19 年度 4，18 年度 5，17 年度 5，16 年度 3），豪州 2（19 年度 3，18 年度 3，17 年度 2，16 年度 2）の大学および研究所であった。
- [3] 海外技術協力・支援の実績は，スリランカ，タイ，中国，ベトナム，モンゴルなどの各国に対する医療技術支援など 8（19 年度 7，18 年度 7，17 年度 7）件あった。
- [4] 国内での共同研究は全体で 273（19 年度 268，18 年度 140，17 年度 181，16 年度 101）件あり，内訳は大学 202（19 年度 190，18 年度 86，17 年度 110，16 年度 80），民間企業 51（19 年度 45，18 年度 35，17 年度 40，16 年度 16），政府機関 13（19 年度 18，18 年度 15，17 年度 21，16 年度 12），自治体 7（19 年度 15，18 年度 4，17 年度 10，16 年度 3）で，共同研究費の受け入れを伴うものが 58（19 年度 47，18 年度 29，17 年度 41，16 年度 26）件，共同研究員の受け入れを伴うものが 9（19 年度 13，18 年度 4，17 年度 8，

16 年度 8) 件であった。

受託研究は全体で 113 (19 年度 92, 18 年度 85, 17 年度 69, 16 年度 67) 件あり, 内訳は民間企業 94 (19 年度 67, 18 年度 72, 17 年度 60, 16 年度 61), 政府機関 6 (19 年度 9, 18 年度 3, 17 年度 3, 16 年度 6), 自治体 4 (19 年度 6, 18 年度 5, 17 年度 4, 16 年度 1), 大学等 9 (19 年度 10, 18 年度 5, 17 年度 2) で, 受託研究費の受け入れを伴うものが 112 (19 年度 81, 18 年度 66, 17 年度 66, 16 年度 64) 件で, 共同・受託ともに前年度より件数が伸びていた。

[5] 学外における教育活動は, 市民公開講座 19 (19 年度 11, 18 年度 6, 17 年度 4, 16 年度 9) 件, 高校での出前授業 39 (19 年度 33, 18 年度 25, 17 年度 35, 16 年度 26) 件, 市民対象講演 55 (19 年度 43, 18 年度 66, 17 年度 74, 16 年度 47) 件, 専門家対象講演 356 (19 年度 288, 18 年度 396, 17 年度 394, 16 年度 247) 件, コ・メディカル等の教育支援非常勤講師 115 (19 年度 108, 18 年度 128, 17 年度 36, 16 年度 28) 件, 技術指導 19 件であった。

[6] 国・地方自治体の各種委員会・審議会委員などの貢献は, 国 36 (19 年度 18, 18 年度 20, 17 年度 25, 16 年度 25) 件, 佐賀県 114 (19 年度 83, 18 年度 136, 17 年度 119, 16 年度 98) 件, 佐賀市 20 (19 年度 16, 18 年度 16, 17 年度 16, 16 年度 9) 件, 県外 4 (19 年度 5, 18 年度 5, 17 年度 7, 16 年度 5) 件, 医師会等その他 56 (19 年度 43, 18 年度 22, 17 年度 47, 16 年度 17) 件であった。

3) 国際・社会貢献領域全体の状況

- 学部教育に留学生を受け入れ難い分, 国際交流の幅が狭い。その分を補う意味でも, 海外共同研究等の活動を活性化させる必要がある。
- 国内では, 共同研究・受託研究による社会貢献, 市民ならびに専門家対象の講演やコ・メディカル等の教育支援など教育面での社会貢献, および国・地方自治体の各種委員としての貢献が相当数あり, 活発な社会貢献を行っている。

(4) 組織運営の領域

1) 評価項目と評価点：ここでは以下の項目について点検し，評点化を行った。

[1] 佐賀大学全学委員会，専門部会等における貢献：委員長，委員としての件数を点数化。

[2] 学部，学科，附属病院の委員会，専門部会等における貢献：委員長，委員としての件数を点数化。

[3] 教務関係の役職（フェーズ主任，教科主任 等），組織・運営の役職：実績件数を評点化。

2) 集計結果：上記評価項目の評点と，それらを合計した組織運営領域の評価点の職域・職種別平均値を表5に示す。

表5．組織運営の領域，評価項目の平均評価点

職域・職種 区分		組織運営 領域	各 評 価 項 目 の 平 均 評 点		
		平均 評価点数	[1] 全学委員等	[2] 学部等委員	[3] 教務関係
基礎 医学 系	教授	28.9	6.5	11.3	11.2
	准教授・講師	4.6	1.7	1.8	1.1
	助教	0.5	0.1	0.4	0.0
臨床 系	教授	31.5	1.6	21.1	9.2
	准教授・講師	5.5	0.3	4.0	1.1
	助教	1.7	0.2	1.4	0.1
看護 学	教授	50.4	2.9	19.0	28.6
	准教授・講師	14.8	0.9	5.5	8.5
	助教	1.2	0.0	1.2	0.0

3) 組織運営領域全体の状況

- 組織運営の領域では，職務上主に教授が各種委員を担当するため，評価点は教授に偏っている。医学研究科基礎系および臨床系では相応の分担になっているようだが，看護学科ではかなり負担が高い。教員数の関係もあるが，学部内委員会の委員構成の見直しなど，改善策の検討は今後の課題である。

(5) 診療の領域

1) 評価項目と評価点：ここでは以下の項目について点検し，評点化を行った。

[1] 附属病院内 診療活動：総診療実働時間数を点数化。

[2] 病院運営の貢献：チーフレジデント，リスクマネージャー，横断的診療班等としての実働時間および高度先進医療の貢献件数を評点化。

[3] 専門医，指導医等の資格取得状況：取得している資格，新たに取得または更新した資格の件数を評点化。

2) 集計結果：上記評価項目の評点と，それらを合計した診療領域の評価点の職域・職種別平均値を表6に示す。

表6．診療の領域，評価項目の平均評価点

職域・職種 区分		診療領域	各 評 価 項 目 の 平 均 評 点		
		平均 評価点数	[1] 院内診療活動	[2] 病院運営	[3] 専門医等資格
医学科基礎系	教授	7.0	5.1	0.0	1.9
	准教授・講師	0.4	0.0	0.0	0.4
	助教	8.6	7.8	0.0	0.8
臨床系	教授	54.7	41.9	1.7	11.1
	准教授・講師	88.9	74.0	5.6	9.2
	助教	101.9	86.3	10.4	5.1
看護学科	教授	5.9	2.6	0.3	3.0
	准教授・講師	0.0	0.0	0.0	0.0
	助教	0.0	0.0	0.0	0.0

3) 診療領域全体の状況

- 診療領域に医学科基礎系および看護学科の教員が数名貢献しているが，診療領域は臨床系の教員により支えられている。そのなかでも，評価点は助教が最も高く，次いで准教授・講師，教授の順になっており，診療と病院運営の両方の活動に助教，准教授・講師が大きく貢献していることが示されている。

4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析

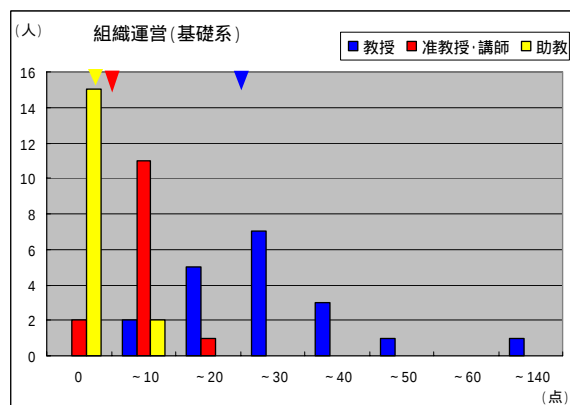
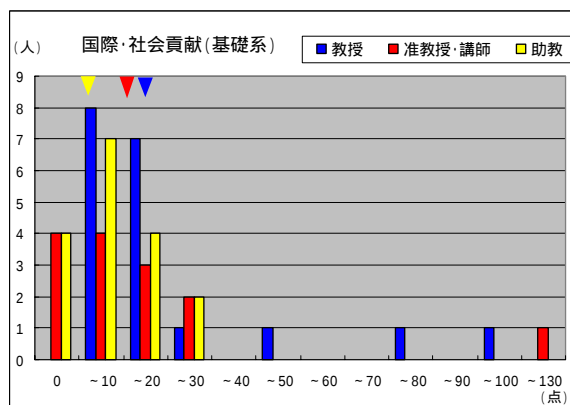
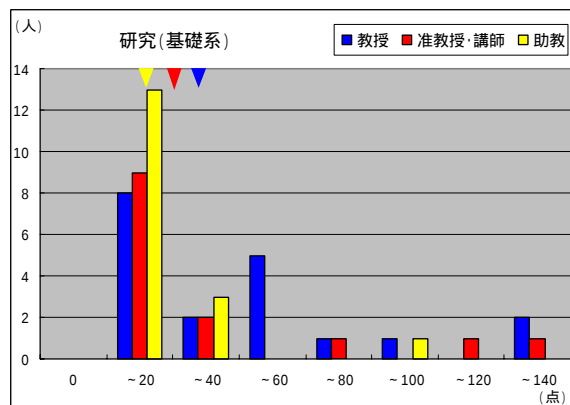
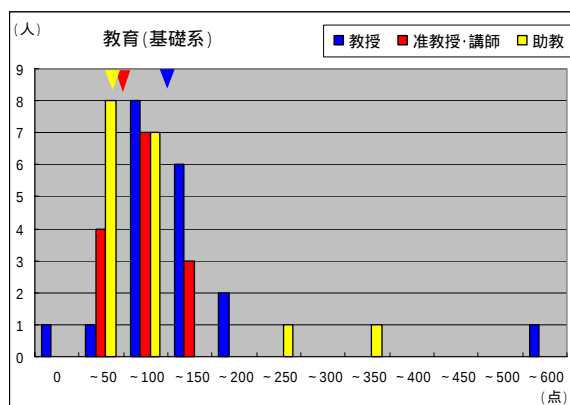
1) 各評価領域における職域・職種別の評価点数分布

各評価領域の評価点数を横軸に，評価点に該当する教員の数縦軸にとったグラフで，評価点の分布と平均点（矢印）を職域・職種別（教授は青，准教授・講師は赤，助教は黄色）に示す。

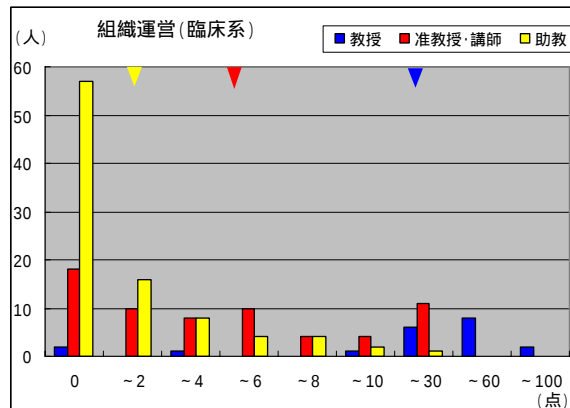
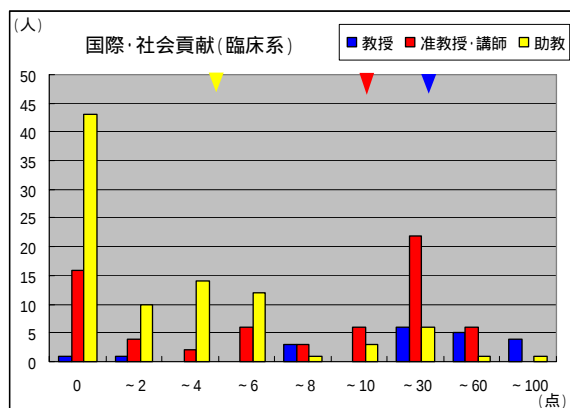
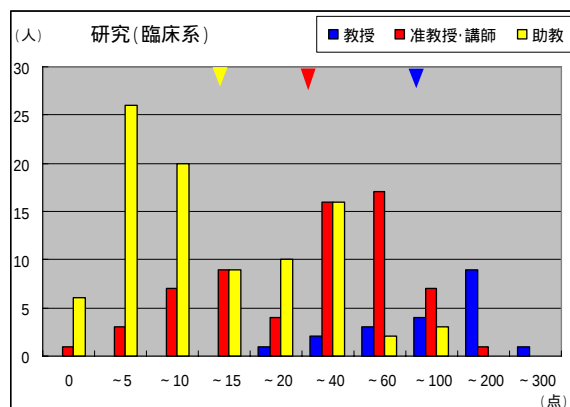
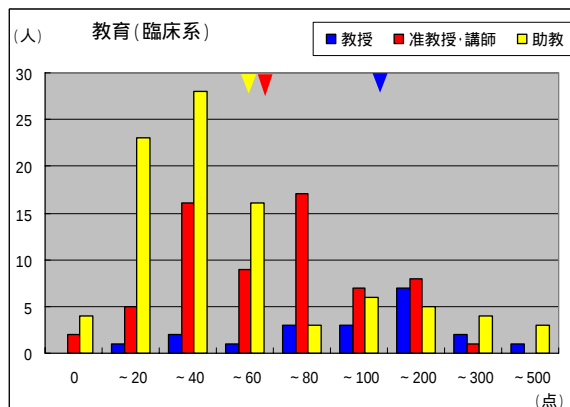
これで見ると，教育，研究，臨床の領域では，数人の教員が飛びぬけて評価点が高く，これらが平均点を引き上げている。

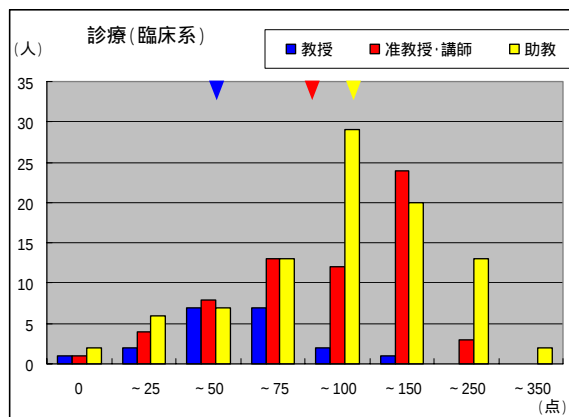
評価点が飛び離れているものについては，その要因について個別に調査する必要がある。

医学科基礎系

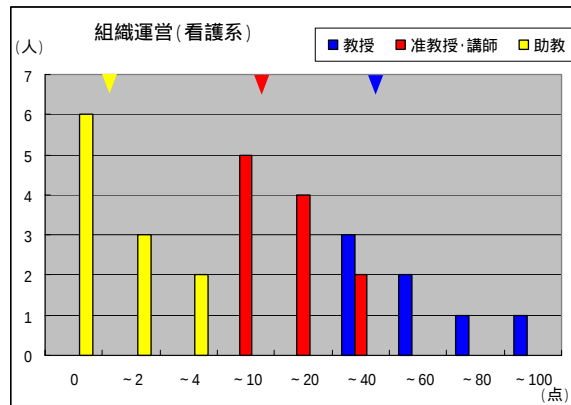
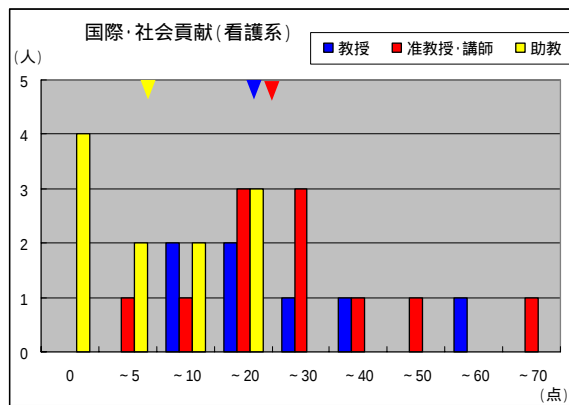
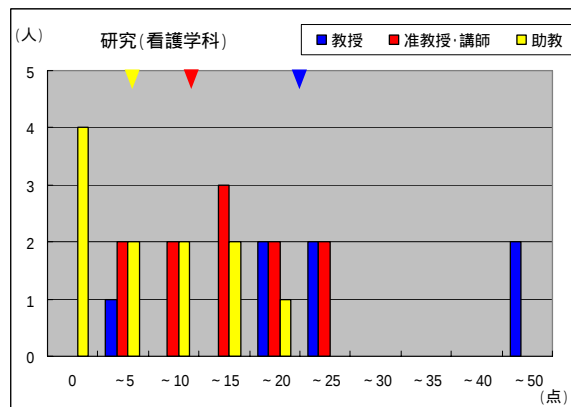
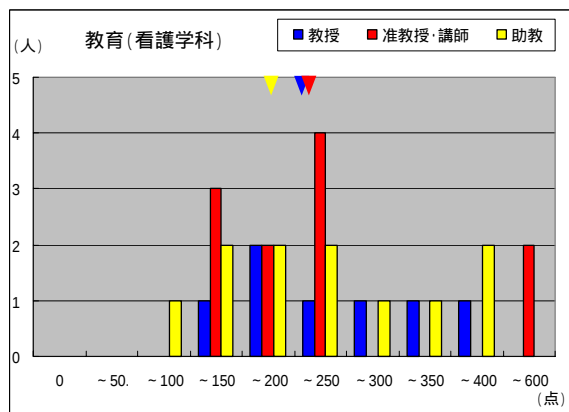


医学科臨床系





看護学科

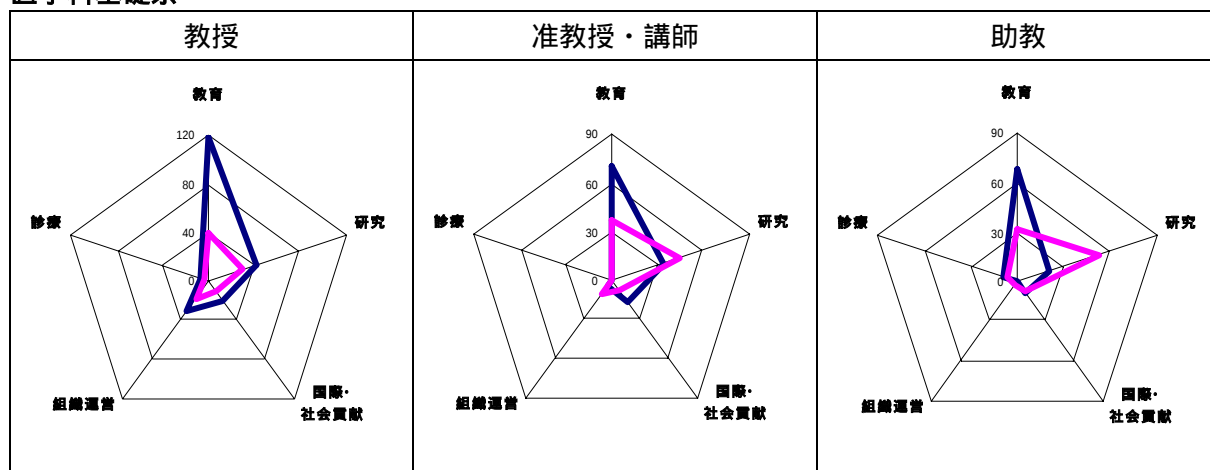


2) 目標とする活動領域の重み配分と評価点との関係

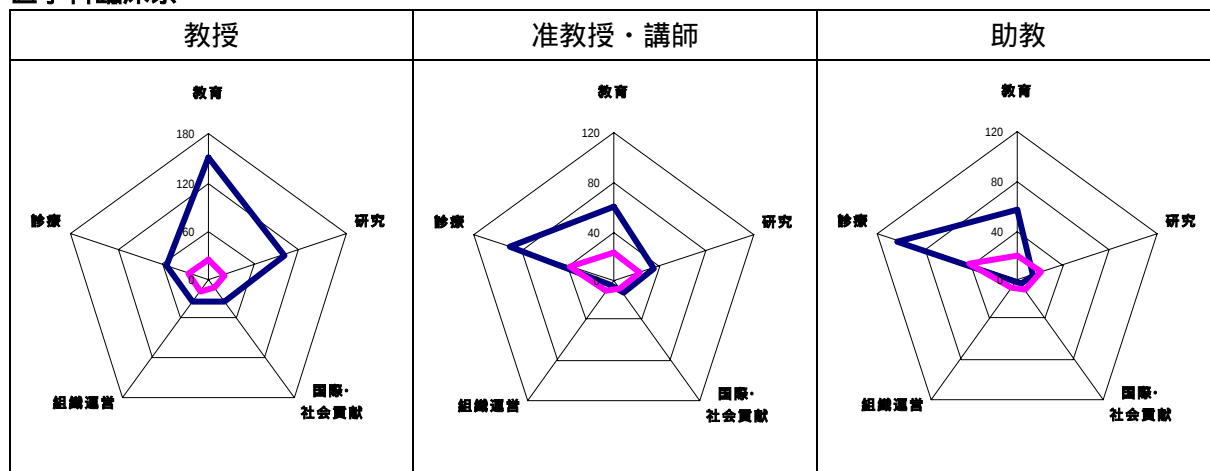
各評領域の評価平均点（青色）と、予め申告した各領域の重み配分の平均値（赤色，100%を100点に換算）を，職域・職種別にレーダーグラフで示す。この場合，両者の点数スケールが異なるので，値は比較にならないが，グラフの形状により活動バランスを比較できる。

これで見ると，医学科基礎系および臨床系では，概ね重み配分と評価点のバランスが取れているが，看護学科では教育と研究の評価点バランスがとれていないといえる。

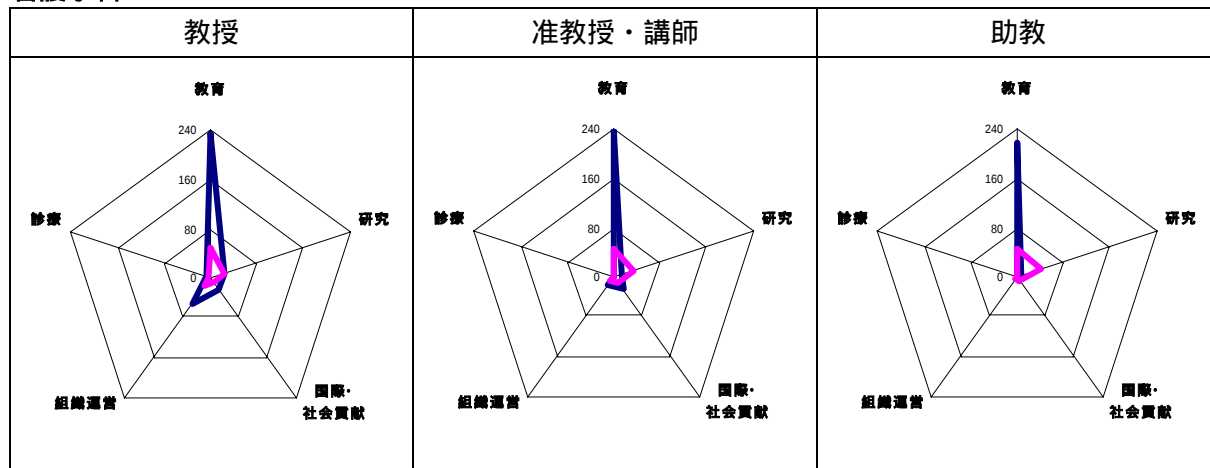
医学科基礎系



医学科臨床系

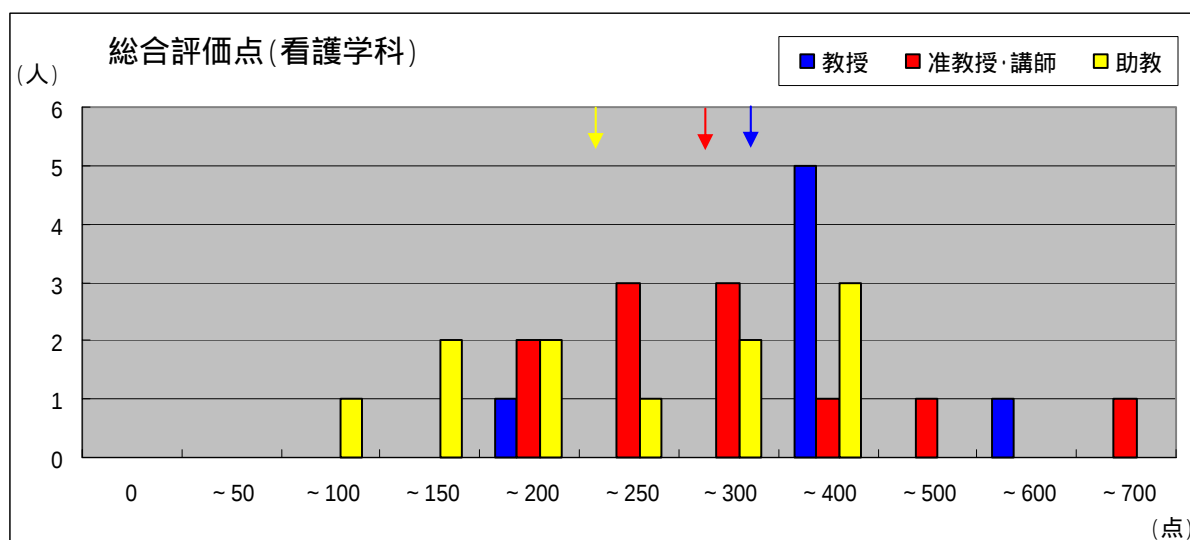
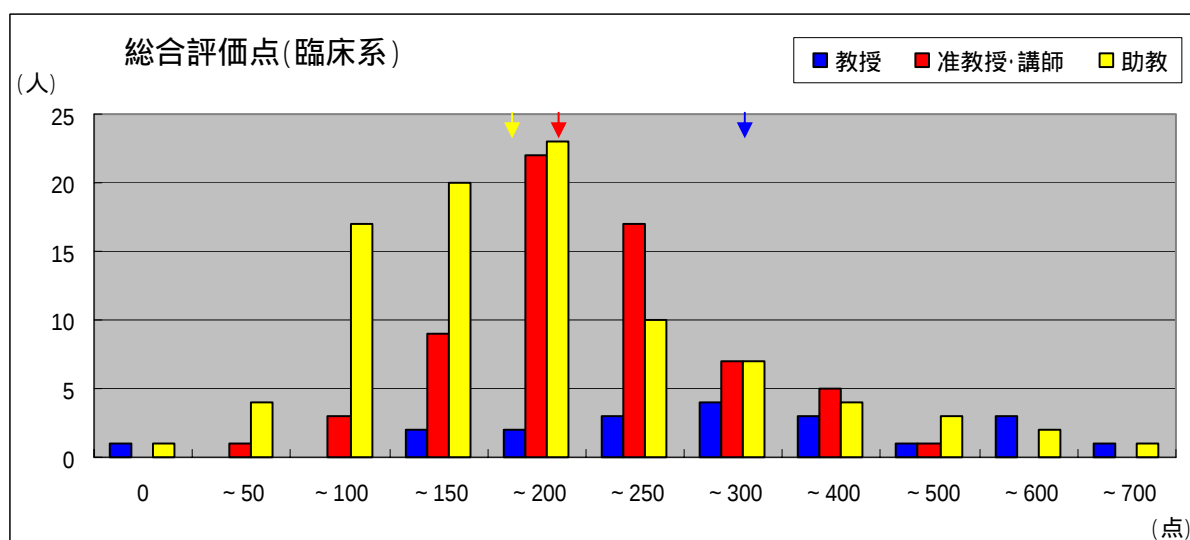
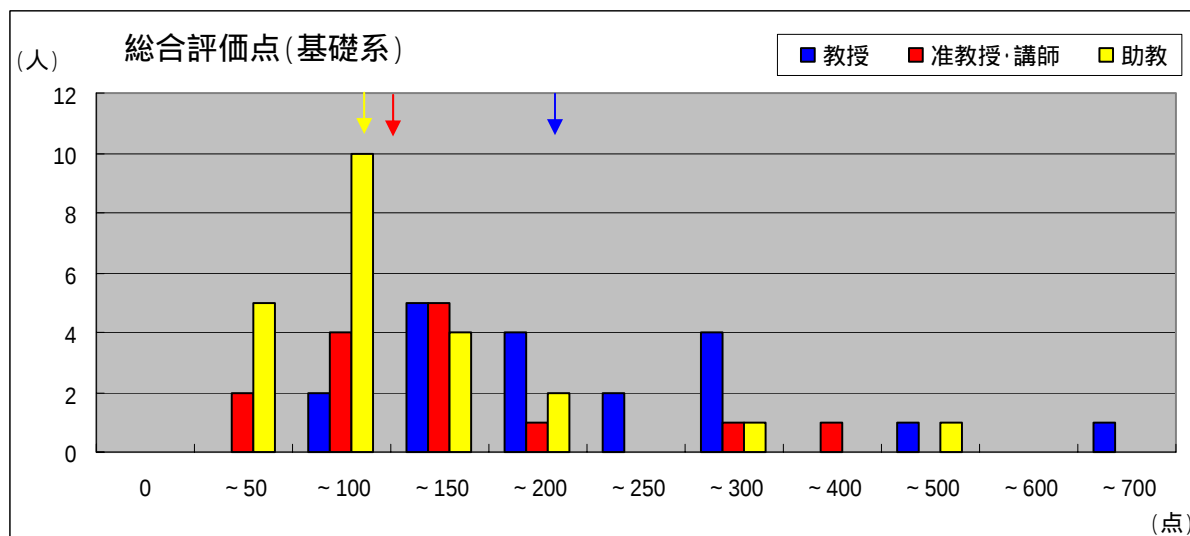


看護学科



3) 職域・職種別の総合評価点数分布

各評領域の合計評価点数を横軸に、評価点に該当する教員の数（縦軸）をとったグラフで、評価点の分布と平均点（矢印）を職域・職種別（教授は青、助教授・講師は赤、助手は黄色）に示す。



5. 各教員の平成20年度活動目標に関する達成度自己評価の集計

前年度に各教員が設定した平成20年度活動目標の達成状況について、各自が評価領域ごとに自己点検を行い自己評価した達成率(%)の職域・職種別平均値と、それに重み配分を掛け合わせたものを合計した結果を表7に示す。

達成度に関する自己評価は、評価の辛さ・甘さが個人によって異なるが、教育領域の達成度は高く、研究領域の達成度はやや低く自己評価している。総合的には概ね67.5%(19年度78.9%, 18年度80%)の活動目標達成率と自己評価していることが示されている。

表7. 平成20年度活動目標に関する達成度自己評価の平均値

職域・職種 区分		目標達成率(%)					重み加算達成度 (目標達成率平均×重み配分率平均)					
		教育	研究	国際交流・社会貢献	組織運営	診療	教育	研究	国際交流・社会貢献	組織運営	診療	合計
系 医学科基礎	教授	87.6	72.2	70.6	87.5	19.7	34.1	21.7	7.1	15.6	0.7	79.0
	准教授・講師	91.2	69.5	53.2	73.4	8.6	33.8	30.7	4.1	7.8	0.0	76.5
	助教	85.5	65.0	60.7	33.2	20.0	27.3	33.7	4.5	0.9	1.2	67.7
臨床系	教授	86.5	80.0	80.1	78.6	81.7	20.5	16.6	10.3	12.8	21.5	81.8
	准教授・講師	86.4	71.6	75.9	73.1	89.4	19.8	15.8	6.6	6.6	33.4	82.2
	助教	80.8	64.5	49.7	65.3	84.4	16.2	14.0	4.5	5.8	34.2	74.7
看護学科	教授	94.0	81.4	92.1	92.9	27.1	45.0	18.6	7.9	15.9	1.0	88.4
	准教授・講師	89.1	68.5	83.6	75.3	0.0	39.7	23.0	9.9	7.5	0.0	80.1
	助教	80.3	78.2	77.7	50.9	0.0	36.9	33.0	5.8	2.2	0.0	77.9

6. 教員の個人評価(平成20年度活動実績)実施の反省と課題

平成20年度活動実績の個人評価は、認証評価報告書作成に必要なデータを収集するために、前年度の中期目標期間4年目の法人評価報告書作成対応と同様に、通常の翌年度4月実施を前倒して20年3月に各教員の実績及び自己点検報告書の提出を求めて実施した。

今回の実施結果では、次のような問題点が認められた。

(1) 実施上の問題事例

- 1) 2月末依頼、3月末提出締切としていたが、未提出のまま転出した教員がいた。
- 2) 年度途中採用の教員に目標の提出を依頼しているが、提出しない教員がいる。そのため、年度末に活動実績報告書の提出のみとなり、自己点検評価ができないケースがあった。
- 3) グループ長が報告書の内容を確認することになっているが、グループ集計の確認依頼を出しても、確認・修正が成されていないものがある。
- 4) 記載不備等で修正依頼をしても、評価は低くて構わないと修正等をなおざりにされるケースがあった。

(2) 報告書記載内容の問題例

- 1) 医学科選択コース、看護学科医療看護セミナー、臨床実習の指導実績時間数に信憑性がない数値の記入
- 2) FDへの参加実績に、学会参加などFD活動として適合し難い例の記載
- 3) 国・地方自治体の各種委員会・審議会委員などの実績で、学会役員など該当しない役職の記載

- 4) その他、記載漏れ、記載項目欄の間違い、記入例指示に反した記載、記載内容の不備等
- (3) 教員からの意見・苦情等
- 1) 自分が就いている役職が評価対象になっていない(点数化されない)
 - 2) 診療に関する評価項目への不満
 - 3) 論文・研究に関して、内容ではなく件数で評価されることへの不満

平成 16 年度実績の試行から 5 回目の実施となり、惰性・形骸化に陥らぬよう、評価精度の向上と評価結果の活用に向けて、さらなる改善を進めていく必要がある。

【参考 1：20 年度の事務的な問題点】

○実施状況

- ・ 2 月末依頼、3 月末提出締切としているが、未提出のまま転出になる教員が何人かいる。
 - ・ 教員によって記載内容にばらつきがある
 - ・ 内容についてチェック機能がない
- (グループ長が内容確認するとなっているが、グループ評価が形骸化している。グループ評価依頼を出しても、ほとんど修正がない)
- ・ 年度途中採用の教員に目標提出をメールで依頼しているが、提出する教員が少ない。
- そのため年度途中の場合、活動実績報告書のみとなり、自己点検評価ができないケースが多い。
- ・ 評価結果の一部が賞与等の査定資料になったが、評価に対する教員の信頼度は年々下がっている。(記載不備等で修正依頼をしても、評価は低くて構わないと修正等をなおざりにされるケースが多い)

○内容について(苦情等)

- ・ 自分が就いている役職が評価対象になっていない(点数化されない)
- ・ 診療に関する評価項目への不満
- ・ 論文・研究に関して、内容ではなく件数で評価されることへの不満

【参考 2：19 年度の反省と課題】

- (1) 平成 20 年度活動実績の個人評価は、中期目標期間 4 年目の法人評価報告書作成に必要なデータを収集するために、通常の翌年度 4 月実施を前倒して 20 年 3 月に各教員の実績及び自己点検報告書の提出を求めて実施した。
- (2) また、同時に全学共通の「教員報告様式(平成 20 年 1 月 8 日情報政策委員会制定)」による各教員の実績データ提出を本学の情報政策委員会から求められたため、本学部教員個人評価の活動実績報告書(資料 4)のフォーマットを「教員報告様式」に合わせるように改変を行い実施した。
- (3) 上記の状況で、短期間に多くの報告書の提出を求めた結果、以下のような問題点が現れた。
- 1) 実績報告書の記載内容に次のような誤りが認められ、修正・再記入の依頼に多くの労力を要した。
 - 医学科選択コース・看護学科医療看護セミナー指導の実績時間数に信憑性がない数値の記入

FD への参加実績に、学会参加など FD 活動として適合し難い例の記載

オフィスアワー等による学生支援の実績において、延べ人数等の計算が合わないもの

国・地方自治体の各種委員会・審議会委員などの実績で、学会役員など該当しない役職の記載

その他全般的に、記載漏れ、記載項目欄の間違い、記入例指示に反した記載、記載内容の不備等

2) 実績報告書の記載にあたって、教員から次のような質問・意見・要望等が寄せられた。

依頼から提出締切までの期間が短すぎる。

何度も同じ項目を入力しなければならない。(全学統一教員報告書と必要入力項目が重なっている。)

年度途中からの在籍でも提出しなければならないのか。

診療に関する正確な評価方法を検討して欲しい。

(4) 前回の課題「評価結果の利用方法の明確化」の改善策として、教員の人事評価に個人評価データを利用することとし、以下の教授会決定を行い、平成 20 年度の人事評価に本年度評価結果を活用した。

1) 「医学部教員の自己点検評価データの利用についての申合せ」(平成 20 年 1 月 16 日教授会決定)

現行の医学部教員の自己点検評価の各評価領域(教育、研究、国際貢献・社会貢献、組織運営、診療)において、それぞれの領域・職種別に評価点数の上位者について、評価データを「国立大学法人佐賀大学教員人事評価試行実施要項」(平成 19 年 3 月 13 日制定)における下記項目の該当者を判定するための資料とする。

(1) 上位昇給者の判定

(2) 勤勉手当の成績優秀者の判定

2) 「医学部における教員の人事評価の実施について」(平成 20 年 10 月 15 日教授会決定)

・審査項目を、佐賀大学教員人事評価実施要項第 9 の規定に基づく審査項目のほか、医学部教員の自己点検評価の評価項目等とした。

・上位昇給区分の判定における審査対象とする業績等を、昇給前 1 年間の業績及びそれまでの業績の蓄積とし、これに教員の個人評価データ等を利用することとした。

(5) 平成 16 年度実績の試行から 4 回目の個人評価を経験したが、惰性に陥らぬよう、評価精度の向上と評価結果の活用に向けて、さらなる改善を進めていく必要がある。

平成 20 年度佐賀大学医学部「教員の個人評価」実施の説明（平成 21 年実施）

佐賀大学医学部評価委員会

以下の要領で教員個人の活動（平成 20 年度実績）に関する自己点検と評価を実施します。この個人評価は、「国立大学法人佐賀大学における職員の個人評価に関する実施基準，同実施指針」及び「佐賀大学医学部における職員の個人評価に関する実施基準，同実施指針」により行われます。これに関する資料等は，[医学部 H P > 医学部の活動 > 点検評価](#)

<https://www.gab.med.saga-u.ac.jp/tenkenhyouka/top.htm> に掲載してありますので，参照して下さい。

個人評価は，各人による自己点検・評価と，評価委員会による審査・評価で構成されています。各人による自己点検・評価は，年度毎に個人が立てた目標の達成状況と活動実績について行い，**個人目標申告書（様式 1）**，**活動実績報告書（様式 2）** 及び **自己点検・評価書（様式 3）** を作成のうえ，講座等長を経由して評価委員長（学部長）に提出することになっています。各様式の**記入例**を**上記 H P**に掲載してありますので，**記入例の注意書き及び記載例に沿って**各様式を作成し（注：昨年度の様式とは異なる部分があります），H P 掲載の**チェックリスト**で**記載内容を確認のうえ**，下記の日程で提出して下さい。

- ・ 各人から講座等長への提出締め切り： 3 月 26 日（木）ころ
- ・ 講座等長から評価委員会への提出締め切り： 3 月 31 日（火）必着

【各様式の作成手順】

1．平成 20 年度活動実績の自己点検評価

- 1) 【H20 活動実績報告書】ファイル（講座等グループ長から所属教員ごとに配布）の左側，様式 2-1「活動実績報告書」に，記入例の注意書き及び記載例に沿って，教育，研究，国際交流・社会貢献，組織運営，診療の各領域で該当するものを全て記入します。
- 2) 次いで，同ファイルの右側，様式 2-2（水色枠内）に，各評価項目に該当する実績数値を記入して下さい。それぞれの評価基準を基に自動的に評価点が算出されます。
- 3) 【H20 自己点検評価書】ファイルの（水色枠内）に，前年度に各自が設定した平成 20 年度目標が記載されています。これに照らして活動実績の状況や目標の達成度などを自己点検評価した結果を、（緑色枠内）に記入して下さい。また，枠内には，「目標達成率%」，「実績に対する自己評価」及び「目標達成状況の自己点検評価」を記入して下さい（記入例参照）。
- 4) 同ファイル（黄色枠内）へグループ長評価コメントを記入して下さい。

2．平成 21 年度目標及び重みの設定

【H21 個人目標申告書】ファイル（講座等グループ長から所属教員ごとに配布）の（水色枠内）に，平成 21 年度の活動目標と重み付けを，記入例の注意書き及び記載例に沿って記載してください。残りの部分（平成 21 年度の活動実績）は，平成 22 年 4 月に記入して提出することになります。

問い合わせ先：医学部総務課（研究・評価主担当）

E-mail: khyouka@mail.admin.saga-u.ac.jp

（内線 3469）

〔 平成 18 年 7 月 20 日
制 定 〕

（趣旨）

第 1 この実施基準は、国立大学法人佐賀大学における職員の個人評価に関する実施基準（平成 17 年 9 月 27 日制定。以下「佐賀大学個人評価実施基準」という。）第 3 に基づき、佐賀大学医学部（以下「本学部」という。）における職員の個人評価の実施基準に関し、必要な事項を定める。

（評価体制）

第 2 本学部の個人評価の実施に係る評価組織は、医学部評価委員会（以下「評価委員会」という。）とする。

2 評価の対象

本学部が行う個人評価の対象とする職員は、本学部の各講座、部門、診療科、センター（以下「講座等」という。）に所属する大学教員（教授、准教授、講師、助教、助手）及び教育・研究支援職員（教務職員及び教室系技術職員）とする。なお、医学部附属病院における医療技術職員及び看護職員に対する個人評価の実施については、病院長が別に定める。

（点検・評価項目及び評価基準等）

第 3 点検・評価は次の各号に示す領域ごとに、個人の活動実績と改善に向けた取組について行う。

(1) 大学教員

教育， 研究， 国際交流・社会貢献， 組織運営及び 診療の各領域

(2) 一般職員のうち教務職員及び教室系技術職員

教育支援， 研究支援， 社会貢献支援， 組織運営支援の各領域

2 各領域の点検・評価項目及び評価基準は第 4 の 2 号に定める活動実績報告書によるものとする。

3 各職員は、個性を生かす評価を行うため、自己の職種、職務、能力、関心等を勘案して各評価領域における達成目標ならびに活動ウエイト「重み」配分を予め設定して申告する。

4 達成目標並びに重み配分の設定は、別に定める医学部における個人達成目標及び重み配分の指針に基づいて行う。

（評価の実施方法）

第 4 個人評価の実施は、佐賀大学個人評価実施基準によるもののほか、次の各号により実施する。

(1) 各職員は、毎年 4 月末までに「個人目標申告書」（別紙様式 1）を作成し、講座等の長を経由して学部長に提出する。

(2) 各職員は、毎年 4 月末までに前年度の「活動実績報告書」（別紙様式 2）及び「自己点検・評価書」（別紙様式 3）を作成し、講座等の長を経由して学部長に提出する。

(3) 評価委員会は、各職員の個人目標申告書、活動実績報告書及び自己点検・評価書に基づ

いて、本学及び本学部の目標達成に向けた活動という観点から審査し、これらを基に評価を行う。審査に当たり、評価委員会は、審査の公平性を確保するため、必要に応じ、他の職員から意見を求めることができる。

- (4) 領域ごとの評価基準並びに総合評価基準は、自己点検・評価書（別紙様式3）に定めるものとし、総合評価に際しては、職員から先に申告された重みを考慮する。
- (5) 学部長は、自己点検・評価書に評価結果を記入した「個人評価結果」（別紙様式4）を、講座等の長を経由して当該職員に通知する。
- (6) 職員は、個人評価の結果に対して不服がある場合は、通知後2週間以内に「不服申立書」（別紙様式5）を学部長に提出することができる。その場合、評価委員会は、当該職員から意見を聴取の上、必要と認められるときは、再審査・評価を行い、その結果を当該職員に「再審査・評価結果通知書」（別紙様式6）により通知する。再審査に際し、評価委員会は、先行する審査に際して意見を求めた職員以外に、更に必要と認められる者から意見を求める。
- (7) 学部長は、各年度の9月末日までに個人評価結果の集計と総合的分析を行い、結果を学長に報告する。

（評価結果の活用）

第5 評価結果の活用については、国立大学法人佐賀大学大学評価の実施に関する規則（平成17年3月1日制定）によるもののほか次の各号によるものとする。

- (1) 職員は、自己の活動状況を点検・評価し、自己の活動改善の資料とする。
- (2) 講座等の長は職員の活動実績を各講座等においてとりまとめ、評価し、講座等の活動改善の資料とする。
- (3) 学部長及び講座等の長は、活動状況の低い職員に対し、活動の改善について適切な指導及び助言を行う。
- (4) 学部長は、個人評価の結果を、職員活動の一層の向上を促すための適切な措置、任期満了時における再任審査及び人事の適正化の資料に活用する。
- (5) 学部長は、講座等ごとの結果を取りまとめ、本学部の教育、研究、国際・社会貢献、組織運営及び診療の改善に役立てる。

（評価結果の公表等）

第6 講座等ごとに取りまとめた活動実績及び個人評価の集計・総合的分析の結果は、教授会等に報告するとともに公表する。

- 2 個人の評価結果は、本人以外には公表しない。

附 則

- 1 この基準は、平成18年7月20日から実施し、平成18年4月1日から適用する。
- 2 佐賀大学医学部における職員の個人評価に関する実施基準（試行）（平成17年9月28日制定）は、廃止する。

附 記（平成19年3月8日改正）

この基準は、平成19年4月1日から実施する。

「医学部における個人達成目標及び重み配分の指針」(教員用)

(平成 18 年 7 月 20 日
制 定)

1. 個人達成目標及び重み配分の設定の目的

教員の業績評価は、教員の諸活動の領域（教育，研究，国際交流・社会貢献，管理運営及び診療）について行われる。画一的な基準ではなく，各教員個人の個性を生かす評価を行うため，自主的に達成目標と活動領域の重み配分を設定して申告する。

2. 達成目標設定の方法

各教員は，自己の立場，職務，能力，関心等を勘案して，教育，研究，国際交流・社会貢献，管理運営及び診療の各領域における達成努力目標を以下の例示を参考にして設定し，「個人目標申告書」（別紙様式 1）に記入する。

各領域の目標の例示

教育に関する目標（教授，准教授，講師は 5 つ以上の目標を設定すること）

1. 学部教育及び大学院教育において講義・実習を可能な限り担当する。
2. 教養教育の主題科目を担当する
3. 所属する部局の枠を超えて，横断的に教育に貢献する。
4. 授業の目的，内容を分かりやすく示した資料を作成し，学生による活用を高める。
5. 学習要項に到達目標，評価方法・基準を明記し，厳格な成績評価を行う。
6. 学生による授業評価等を参考にして，授業内容，方法の改善を行う。
7. 問題発見・解決型授業，学生参加型授業，インターネット(Web)利用授業などの学習指導方法や創造的教材などを開発する。
8. 臨床実習やセミナーなどにおける個別教育指導について，更に改善を行う。
9. PBL チューターを担当し，チューター技量の改善を行う。
10. チューター等による，学生指導・支援を積極的に行う。
11. 大学院生の受入れに努めるとともに，個別教育研究指導の実施を高める。
12. 卒後研修における指導の改善を行う。
13. 教育研修（ファカルティ・デベロプメント）に積極的に参加し，自己の改善に資す。
14. その他，独自の目標

研究に関する目標（全教員は必須項目を含めて 5 つ以上の目標を設定すること）

1. 講座等グループの研究を総括し，研究活動を高める。（教授等）
2. 大学院生等の論文作成指導の量的，質的水準を高める。（教授等）
3. Impact factor の付いた学術誌に primary author として複数の論文を発表。（教授等）
4. Impact factor の付いた学術誌に first author として年 1 編以上の論文を発表（助教等）
5. 国際学会，全国レベルの学会等で共同演者として発表。（教授等）
6. 国際学会，全国レベルの学会で演者として発表。（助教等）
7. 地域に密着した研究に取り組む。

8. 学内外の共同研究を推進する。
9. 研究成果等による知的財産の創出と取得を行う。
10. 研究代表者として科学研究費補助金費等の公募に応募する。(全員必須)
11. 研究代表者として科学研究費補助金費等を1件以上獲得する。
12. 受託研究、共同研究等による外部資金の獲得、客員研究員の受け入れを行う。
13. その他、独自の目標。

国際交流・社会貢献に関する目標

1. 本学が行う国際的学术交流事業に協力、貢献する。
2. 留学生の受入れ、指導を量的・質的に高める。
3. 講座等研究グループあるいは個人の英語版ホームページの設置、充実を進める。
4. 国際学会、国際交流シンポジウムの開催あるいは参加を行う。
5. 国際共同研究者の受入れを行う。
6. 日本学術振興会、JICA、JETRO等の制度・組織を利用した交際交流を行う。
7. 本学が行う市民公開講座・開放講座の開設、実施に協力する。
8. 地域の教育機関あるいは共同体等の要請による授業、講演などに協力する。
9. 国や地方自治体等の審議会や委員会あるいは関連学協会等の活動に協力する。
10. 地域産業や地域社会への技術移転を進め、振興・支援に貢献する。
11. 本学が行う地域医療支援活動に協力する。
12. その他、独自の目標。

組織運営に関する目標

1. 全学の委員会、検討部会等の委員として積極的に活動し、大学の運営に貢献する。
2. 学部・学科の委員会、検討部会等の委員として積極的に活動し、学部等の運営に貢献する。
3. 講座等グループの幹事として積極的に活動し、講座等グループの運営に貢献する。
4. 大学や学部が開催する行事に積極的に参加し、その運営に貢献する。
5. その他、独自の目標。

診療に関する目標

1. 地域の中核となる特定機能病院として良質の医療を提供する。
2. 高度先進医療は勿論、治験を積極的に進め、新薬の開発に寄与する。
3. 診療を通して、良い医療人を育成する。
4. 医療経営に配慮した診療を行う。
5. 保健医療や社会資源を考慮した医療を行う。
6. その他、独自の目標。

3. 重み配分の設定と用い方

各教員は、各評価領域における活動の重み配分を合計1となるように設定し、それを総合評価点算出の重みとして用いる。

4. 重み配分設定の指針

各教員は、自己の職種、職務、能力、関心等を勘案して、下記の表に基づいて各評価領域に

における活動の重み配分を合計 1 となるように設定し、「個人目標申告書」（別紙様式 1）に記入する。

重み配分基準

評価領域 区分 職種	教 育	研 究	国際交流 ・ 社会貢献	組織運営	診 療	計
教 授	0.3～0.5	0.3～0.5	0.1～0.2	0.1～0.2	-	1
准教授（講師）	0.3～0.5	0.4～0.6	0.05～0.1	0.05～0.1	-	1
助教（助手）	0.2～0.5	0.4～0.8	0～0.1	0～0.1	-	1
臨床系						
教 授	0.2～0.4	0.2～0.4	0.1～0.2	0.1～0.2	0.2～0.4	1
准教授（講師）	0.2～0.4	0.2～0.5	0.05～0.1	0.05～0.1	0.2～0.5	1
助教（助手）	0.1～0.5	0.2～0.7	0～0.1	0～0.1	0.2～0.7	1
学部長等	0.1～0.2	0.1～0.2	0.1～0.2	0.5～0.7	-	1

（注意）

- ・この配分基準が自分にあてはまらないと思われる場合は、配分を講座等の長と協議の上、上記設定範囲外に変更することも可能である。その場合には、理由を明記して提出する。

附 則

- 1 この指針は、平成 18 年 7 月 20 日から実施し、平成 18 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 「医学部における個人達成目標及び重み配分の指針」（教員用）（試行）（平成 17 年 10 月 27 日医学部評価委員会決定）は、廃止する。

附 記（平成 19 年 3 月 8 日改正）

この指針は、平成 19 年 4 月 1 日から実施する。

この報告書は、平成20年度(20年4月1日～21年3月31日)について記入してください。
但し、「研究領域」において、著書・論文等及び学会等の発表実績は、平成20年1月1日～20年12月31日の期間で記入することになっておりますので、注意して記入してください。

・水色枠内に、活動実績の集計数値等を記入して下さい。
評価点数が自動計算されます。

講座名		分野名	
役職		氏名	
国内外への留学または長期休暇等による不在期間	平成 年 月～平成 年 月		ヵ月間

教育	1(1)	1(2)	1(3)	2	3	4(1)	4(2)	5	6	7	研究	1	2	3	4	5	6	7	国際社会	1	2	3	4	5	6	7	組織運営	1	2	3	4	診療	2	3	4	5
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	

教育の領域

- 1 学部教育 実績
- 1) 学部教育： 講義・実習・PBL実績（臨床実習は次項2）に記載，大学院授業は下記4-1）に記載する）

区分	授業科目名	対象学科等・学年	受講学生数	コマ数	時間数	学生による授業評価点
教養教育(主題科目)						
講義						

1-1) 学部教育の評価基準

実績 係数 評価点数

1) 講義・実習・PBLの担当授業時間数合計 ×0.33点	時間数計	0	0.33	0.0
2) 上記の評点に以下の項目点を加算する				
・本庄開講の主題科目担当時間数×0.33点	時間数	0	0.33	0
・鍋島開講の主題科目担当時間数×0.1点	時間数	0	0.1	0
・本庄学内非常勤担当時間数×0.1点	時間数	0	0.1	0
・学生による授業評価				
満足度評価4以上の科目数×2点	科目数	0	2	0
満足度評価3未満の科目数×-2点	科目数	0	-2	0
1-1)の実績評点	合計			0.0

実習					
PBL チューター					
合 計			0	0	

2) 臨床実習指導 実績（臨床実習指導で各自が果たした役割，指導内容などを自由記載）

指導内容等	週当り実質指導時間数	延べ指導週数	総時間数 (年間)
計			0
学生による評価点		20年度は記入しない	

3) 医学科選択コース ・ 看護学科医療看護セミナー 指導実績

コ ー ス ・ セ ミ ナ ー 名 （指導内容等）	学生数	1日当り実質指導時間数	実質総指導日数	実質指導総時間 (年間)
合 計				0

1 - 2) 臨床実習指導の評価基準

（臨床系教員・看護学科教員のみ該当，非該当者は実績評価欄に「N.A.」と記入）

実績 係数 評価点数				
1) 総時間数（年間）× 0.2点	延べ総時間数	0	0.2	0
2) 上記の評点に以下の項目点を加算する				
・ 学生の評価が低い場合 - 2 点	該当は，1 を記入		-2	0
・ 学生の評価が良い場合 + 2 点	該当は，1 を記入		2	0
・ 学生の評価が特に高い（ベスト10など）場合 + 5 点	該当は，1 を記入		5	0
1 - 2) の実績評点	合 計			0.0

実績 係数 評価点数				
1) 実質指導総時間数 × 0.2 点 （臨床実習の配点に準じる）	総時間数	0	0.2	0
1 - 3) の実績評点	合 計			0.0

2 教育改善の取り組み（講義，実習，PBL等における授業・指導方法の工夫）

3

教育研修（ファカルティ ディベロップメント）への参加

研 修，講 習 会 等 の 名 称	開催日	効 果	参加時間数

4

1) 大学院，卒後教育 実績

大学院授業 実績

大 学 院 授 業 科 目 名	受講人数	コマ数	時間数
合 計			0

2 教育改善の取り組みの評価基準

実績 係数 評価点数

1) 取組が無い，或いは取組が具体的でない場合 - 2点	該当は，1を記入、	-2	0
2) 具体的な取組実績がある場合 + 2点		2	0
3) 高く評価された取組実績がある場合 + 5点		5	0
2 の実績評点	合 計		0.0

3 教育研修（ファカルティ ディベロップメント）参加の評価基準

実績 係数 評価点数

1) 参加実績が無い場合 - 2点	該当1を記入	0	-2	0
2) 参加総時間数が8時間未満の場合 + 2点		0	2	0
3) 参加総時間数が8時間以上の場合 + 5点		0	5	0
3 の実績評点	合 計			0.0

4 大学院授業実績の評価基準

(非該当者は実績評価欄に「N.A.」と記入)

実績 係数 評価点数

4 - 1) 授業担当時間数合計×0.33点	時間数合計	0	0.33	0.0
4 - 1) の実績評点	合 計			0.0

2) 研究指導等 実績

大学院指導 学生数	実質的な指導の役割（実験・調査等の指導或いは指導補助，論文作成指導，統括的指導など）	学位取得者指導数(人)		学位論文審査実績	
		修士	課程博士	主査回数	副査回数

5 学内におけるその他の教育活動（全学あるいは全学部的な参加者を対象とした講演やオスキー評価者など）

活 動 の 名 称（演 題 名）	参加者数	総時間数
合 計		0

6 学生への生活指導等（チューター，クラブ顧問，オフィスアワー等による指導）

1）チューター（一般・特別チューター）

指導の区分	指導内容における特記事項

2）クラブ顧問

クラブ名	指導内容における特記事項

4 - 2）研究指導等の評価基準

(非該当者は実績評価点欄に「N.A.」と記入)

		実績	係数	評価点数
1) 年間指導学生数 × 5 点	学生数	0	5	0.0
2) 上記の評点に以下の項目点を加算する				
・学位授与者1人につき + 5 点	授与者数	0	5	0
・主査 1 回につき + 2 点，副査 1 回につき + 1 点	主査回数	0	2	0
	副査回数	0	1	0
4 - 2) の実績評点	合 計			0.0

5 学内におけるその他の教育活動の評価基準

(非該当者は実績評価点欄に「N.A.」と記入)

		実績	係数	評価点数
担当時間数合計 × 0.5 点	時間数合計	0	0.5	0
5 の実績評点	合 計			0.0

6 学生への生活指導等の評価基準

(非該当者は実績評価点欄に「N.A.」と記入)

		実績	係数	評価点数
1) 一般チューターの実績がある場合 0.3 点	件数	0	0.3	0
2) 特別チューターの実績がある場合 0.4 点	件数	0	0.4	0
3) オフィスアワー等による 学生指導の実績がある場合 0.3 点	有は 1を 記入	0	0.3	0
4) クラブ等顧問の実績がある場合 0.1 点	件数	0	0.1	0
6 の実績評点	合 計			0.0

3) オフィスアワーおよび上記以外の学生支援

相談者の種別								相談内容								相談方法						のべ人数			
一般学生		留学生		社会人		障害者		学修相談		生活相談		進路相談		その他		面談 （オフィスアワー： 恒常的に時間を設定しているもの ）		面談 （オフィスアワーの時間を設定せず、 随時対応のもの ）		メール				その他	
0	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人

7 上記項目で表せない教育活動の特記事項（必要があれば記入）

研究の領域

著書，論文等発表の実績（平成20年1月1日～20年12月31日までの実績を記入する）

著書	原著（論文・総説・症例報告を含む）						
	単著の本のみ （編）	分担執筆・共著 （編）	原著の総数 （編）	和文原著 （編）	英文原著 （編）	Impact factor が付いた論文数	Impact factorの 総和
	0	0	0	0	0	0	0
Impact factorでは表せない実績 大著の執筆、調査記録・報告書の編纂など、Impact factorが付かない出版物の価値や論文著者として表れない研究上の実績などを記載してください							
2)	著書、論文等の平成20年発表実績（平成20年1月1日～20年12月31日までの実績を記入する） ・研究業績年報を参考にして記載ください。（行数が足りない場合は、行を挿入して足してください。）						

1) 著書(単著の本のみ)・著書数×5点	著書数 (単著)	0	5	0
1) 著書(分担執筆のもの)・著書数×1点	著書数 (分担)	0	1	0
3) 総説,原著などの論文総数・論文等数×1点	論文等数	0	1	0
4) イバ ¹ クトファクター-総数 ・ ・ ・ イバ ¹ クトファクターをそのまま点数とする	イバ ¹ クトファクターの 総和	0		0
1 の実績評点	合 計			0.0

[illegible][illegible]

【總說】

[illegible]

【症例報告】

[illegible]

2 学会発表等の実績

1) 学会発表等の実績（平成20年1月1日～20年12月31日までの実績を記入する）

共同演者としての発表を含めた発表等の回数を記入し、そのうち主演者としての発表回数を[]内に内数として記入する

国際的学会				国内全国規模の学会				地方会規模の学会				その他の集会等			
一般発表		シンポジスト 招待講演		一般発表		シンポジスト 招待講演		一般発表		シンポジスト 招待講演		一般発表		シンポジスト 招待講演	
0	[0]	0	[0]	0	[0]	0	[0]	0	[0]	0	[0]	0	[0]	0	[0]

2) 学会発表等の平成20年実績（平成20年1月1日～20年12月31日までの実績を記入する）
研究業績年報の様式を参照してください。（行数が足りない場合は、行を挿入して足してください。）

【国際的学会】																			
年度				担当 0:分担者 1:代表者	発表者 筆頭演 者に *学外 ○学内	学会 (会議 等)名	題目	編目番号	意義 a:学術 c:文化	区分 SS, S, A, B, C	開催地	開催年 月日	抄録掲 誌	巻 号	頁から 頁まで	掲載(記入 自由)	備考	大学院 生が含ま れる場合 の区分	1:修士 2:博士 の区分 数字
															</				

【国内全国規模の学会】																			
年度				担当 0:分担者 1:代表者	発表者 筆頭演 者に *学外 ○学内	学会 (会議 等)名	題目	編目番号	意義 a:学術 c:文化	区分 SS, S, A, B, C	開催地	開催年 月日	抄録掲 誌	巻 号	頁から 頁まで	掲載(記入 自由)	備考	大学院 生が含ま れる場合 の区分	1:修 士 2:博 士の区 分数字

【地方規模の学会】																			
年度				担当 0: 分担者 1: 代表者	発表者 筆頭演 者に * 学外 ○ 学内	学会 (会議 等)名	題目	編目番号	意義 a: 学術 c: 文化	区分 SS, S, A, B, C	開催地	開催年 月日	抄録掲 誌	巻 号	頁から 頁まで	掲載(記入 自由)	備考	大学院 生が含ま れる場合 の区分	1: 修士 2: 博士 の区分 数字

【その他の集会等】																			
年度				担当 0:分担者 1:代表者	発表者 筆頭演 者に *学外 ○学内	学会 (会議 等)名	題目	編目番号	意義 a:学術 c:文化	区分 SS, S, A, B, C	開催地	開催年 月日	抄録掲 誌	巻 号	頁から 頁まで	掲載(記入 自由)	備考	大学院 生が含ま れる場合 の区分	1:修 士 2:博 士の区 分数字

2 学会発表等の評価基準

実績 係数 評価点数

1) 国際的学会	一般発表回数×2 点	一般回数	0	2	0
	シンポジスト回数×5 点	シンポ回数	0	5	0
2) 国内全国規模学会	一般発表回数×1 点	一般回数	0	1	0
	シンポジスト回数×2 点	シンポ回数	0	2	0
3) 地方会規模学会	一般発表回数×0.5 点	一般回数	0	0.5	0
	シンポジスト回数×1 点	シンポ回数	0	1	0
4) その他集会	一般発表回数×0.3 点	一般回数	0	0.3	0
	シンポジスト回数×0.5 点	シンポ回数	0	0.5	0
2 の実績評点 合 計					0.0

3 学会への貢献 H 2 0 年度実績（この項目からは，平成20年4月1日～21年3月31日までの実績を記入する）

1) 主催した学会等名

学会等名（開催日，参加者数，開催場所等）	1：学会， 2：シンポジウム， 3：研究会等の区分	1：全国規模 2：地方会規模の区分

2) 学会役員，学術雑誌の編集，レフェリー等 平成20年度実績

4 学術等に関する受賞（国内学会賞，国際学会賞，その他）平成20年度実績

学術（学会）賞名	受 賞 研 究 課 題

3 学会貢献の評価基準 実績 係数 評価点数

3 - 1) 学会等の主催			
1) 全国規模の実績がある場合・・・件数×5点	全国規模件数	0	5 0
2) 地方会規模の実績がある場合・・・件数×4点	地方規模件数	0	4 0
3 - 2) 学会役員等の実績			
1) 学術雑誌の編集委員・・・件数×1点	編集委員件数	0	1 0
2) レフェリー・・・件数×0.2点	レフェリー件数	0	0.2 0
3) 学会理事・・・件数×2点	理事件数	0	2 0
4) 学会評議員・・・件数×1点	評議員件数	0	1 0
5) 学会各種役員・・・件数×0.5点	各種委員件数	0	0.5 0
3 の実績評点	合 計		0.0

4 学術等に関する受賞の評価基準 実績 係数 評価点数

受賞の実績がある場合・・・1件につき10点	受賞件数	0	10 0
4 の実績評点	合 計		0.0

5 科学研究費等補助金の申請・獲得 平成18年度実績

申請した研究助成等の名称（種目）		研 究 課 題	1：代表 0：分担 番号を記載	採択の 有○、 無×の 記号を 記載	交付金 額 （千円）
学 外 助 成 金					
学 内					

6 特許の取得状況（平成20年度に取得したもの）

出願者名	特許の名称等	出願日，登 録日	出願番 号等

7 上記項目で表せない研究活動の特記事項（必要があれば記入）

5 科学研究費等補助金の申請・獲得の評価基準 実績 係数 評価点数

1）科研費等の学外助成金に 代表者 として申請実績があるが，採択がない場合・・・1件につき2点	申請 件数	0	2	0
2）学外助成金に 代表者 として採択（継続を含む）の実績がある場合・・・・・・1件につき5点	採択 件数	0	5	0
3）学内助成金に 代表者 として中期計画実行経費等に採択された場合・・・・1件につき1点	採択 件数	0	1	0
5 の実績評点	合 計			0.0

6 特許取得の評価基準 実績 係数 評価点数

特許取得の実績がある場合 1件につき5点	取得件数	0	5	0
6 の実績評点	合 計			0.0

国際交流・社会貢献の領域

1 国際交流に関する実績

1) 外国人研究者・留学生等の受入れ人数（受け入れ指導者が記入）

外国人研究者		留学生		その他，交換学生等	
長期（1月以上）	短期（1月未満）	国費	私費	長期（1月以上）	短期（1月未満）
0	0	0	0	0	0

2) 留学生派遣等の斡旋，調整 実績

具体例を記入

3) 海外渡航の回数

学会等出席		調査研究・共同研究・研修会等		公務による国際交流事業
校費・科研費支弁	委任経理金・私費	校費・科研費支弁	委任経理金・私費	

2 海外共同研究 実績

相手先 国・機関	共同研究の内容（代表・分担の区別）

3 海外技術協力・支援 実績

対象 国・機関	協力・支援事業の内容（期間）

1 国際交流に関する評価基準

実績 係数 評価点数

1）1月以上の外国人研究者，交換学生等の受入・・・件数×2点	件数	0	2	0
2）1月未満の外国人研究者，交換学生等の受入・・・件数×1点	件数	0	1	0
3）留学生の受入・・・件数×3点	件数	0	3	0
4）留学生の派遣，斡旋・件数×2点	件数	0	2	0
5）公務による海外視察・交流又は交流協定締結校視察訪問・・・件数×3点（その他の海外渡航の実績は評価には加えない）	件数	0	3	0
1 の実績評価点	合 計			0.0

2 海外共同研究の評価基準

実績 係数 評価点数

1）海外共同研究・・・参加件数×3点	件数	0	3	0
2 の実績評価点	合 計			0.0

3 海外技術協力・支援の評価基準

実績 係数 評価点数

1）活動実績・・・参加件数×5点	件数	0	5	0
3 の実績評価点	合 計			0.0

4 国内での共同研究・受託研究 実績

共 同 研 究						
相手先区分 該当欄に○を付ける				共同研究 受け入れの 有無	共同研究 受け入れ 人数	相手先機関と共同研究の内容
1	2	3	4			
大学等	民間企 業	政府機 関	自治体			
受 託 研 究						
相手先区分 該当欄に○を付ける				受託研究費 受け入れの 有無	受託研究の内容（代表・分担の区別）	
1	2	3	4			
大学等	民間企 業	政府機 関	自治体			

5 学外における教育活動（公開講座，出前授業，講演，講習会，非常勤講師など）

市民公開講座	日時・期間	総時間数	参加者数	主催	活動の名称，内容等	満足度評価 点
1）						
2）						
3）						
高校出前授 業・ジョイン トセミナー	日時・期間	総時間数	参加者数	主催	活動の名称，内容等	満足度評価 点
1）						
2）						
3）						

4 国内共同研究・受託研究の評価基準

実績 係数 評価点数

共同研究				
1）代表者として，共同研究■ がある共同研究・・・件数×3点	件数	0	3	0
2）代表者として，共同研究■ がある共同研究・・・件数×5点	件数	0	5	0
3）上記1)，2)以外で，代表者として共同 研究実績がある場合・・・件数×1点	件数	0	1	0
4）上記1)，2)以外で，分担者として共同 研究実績がある場合・・・件数×0.5点	件数	0	0.5	0
受託研究				
5）代表者として，受託研究費の受け入れ がある受託研究費・・・件数×2点	件数	0	2	0
6）代表者だが，受託研究費の受け入れが 無い受託研究費・・・件数×1点	件数	0	1	0
7）分担者としての受託研究実績 ・・・件数×1点	件数	0	1	0
4 の実績評点	合 計			0.0

5 学外における教育活動の評価基準

実績 係数 評価点数

1）市民公開講座又は高校出前授業・・・件数×5点	件数	0	5	0
2）学外コメディカル教育の非常勤講師 件数×3点	件数	0	3	0
3）講演会・講習会の講師・・・件数×2点	件数	0	2	0
5 の実績評点	合 計			0.0

コメディカル教育非常勤講師	日時・期間	総時間数	参加者数	主催	活動の名称，内容等	満足度評価点
1)						
2)						
3)						
4)						
5)						
6)						
講演会	日時・期間	総時間数	参加者数	主催	活動の名称，内容等	満足度評価点
1)						
2)						
3)						
4)						
5)						
6)						
研修会・講習会	日時・期間	総時間数	参加者数	主催	活動の名称，内容等	満足度評価点
1)						
2)						
3)						
4)						
5)						
実地・技術指導	日時・期間	総時間数	参加者数	主催	活動の名称，内容等	満足度評価点
1)						
2)						
3)						

コメディカル等の教育支援に限ります。他大学医学部の非常勤講師は含めない。

複数の講義回数でも同一授業科目は，1件と数える。

6 国・地方自治体等の各種委員会・審議会委員など

学会の評議委員・理事等は、 - 3 - 2) 学会役員の項目に記載すること

各種委員会・審議会委員などの名称	1:国, 2:佐賀県, 3:市, 4:他県・地区, 5:医師会, 6:その他, 委嘱した組織区分の番

7 上記項目で表せない国際交流・社会貢献活動の特記事項（必要があれば記入）

組織運営の領域

1 佐賀大学全学委員会，専門部会等（ワーキンググループを含む）における貢献

委 員 会（ワーキンググループ）名	該当欄に○を付ける		出席回数
	委員長	委員	

2 医学部，医学科，看護学科，附属病院の委員会，専門部会等（ワーキンググループを含む）における貢献

委 員 会（ワーキンググループ）等 名	該当欄に○を付ける		出席回数
	委員長	委員	

6 学外における各種委員会・審議会委員などの評価基準

1) 委員会等組織の代表者・・件数×5点	件数	0	5	0
2) その他の委員・・・・・件数×2点	件数	0	2	0
6 の実績評点	合 計			0.0

1 佐賀大学全学委員会，専門部会委員等の評価基準

1) 委員長としての貢献	件数×5点	件数	0	5	0
2) 委員としての貢献	件数×2点	件数	0	2	0
(ただし, 1), 2)については年間3回以上の出席に限る)					
1 の実績評点		合 計		0.0	

2 医学部内の委員等の評価基準

1) 委員長としての貢献	件数 × 3 点	件数	0	3	0
2) 委員としての貢献	件数 × 2 点	件数	0	2	0
(ただし、1)、2)については年間3回以上の出席に限る)					
2 の実績評点		合 計			0.0

--	--	--	--

3 1) 教務関係の役職（フェーズ主任，教科主任 等）

2) 組織・運営の役職

4 上記項目で表せない組織運営の貢献（必要があれば記入）

--

診療に関する調査（以下は該当者のみ記載）

1 担当診療および診療支援（検査，病理等）の内容

--

2 診療活動の実績

附属病院院内 診療活動の状況

1) ・実働時間は教育，研究，休憩時間を除く，本院内での活動時間のみを記入

区 分		週 平均人数・件数	週 平均実働時間数
外来診療		人/週	時間/週
病棟診療		受持患者 人/週	時間/週
手 術		件/週	時間/週
診 療 支 援	臨床検査	件/週	時間/週
	放射線	件/週	時間/週
	内視鏡	件/週	時間/週
	病理，	件/週	時間/週
	コンサルテーション	件/週	時間/週
		件/週	時間/週
		件/週	時間/週
時間外診療		件/週	時間/週
総 診 療 実 働 時 間		合計	0 時間/週

3 教務関係の役職および組織・運営の役職の評価基準

実績

係数

評価点数

1) 教務関係の役職実績・・・件数×3点	件数	0	3	0
2) 組織・運営の役職実績				
・学部長，病院長・・・・・・・・・・10点	件数	0	10	0
・副医学部長，副病院長・・・・・・・・・・7点	件数	0	7	0
・学科長，図書館医学分館長，センター長・・・件数×5点	件数	0	5	0
・代議員，評議員・・・・・・・・・・件数×3点	件数	0	3	0
・学長補佐，図書館長，全学附属センター長，室長・・・件数×5点	件数	0	5	0
3 の実績評点	合 計			0.0

2 附属病院院内 診療活動の状況の評価基準

実績

係数

評価点数

2-1) 総診療実働時間数（時間/週平均）×2点	時間/週 平均	0	2	0
2-2) 附属病院院外の診療活動は評点に加えない				
2 の実績評点	合 計			0.0

2) 附属病院院外 診療活動の状況

活動場所	活動の内容	週または月 平均活動時間
		時間/週
		時間/週
		時間/月

3 病院運営の貢献

活動区分		活動の内容	活動に携わった 週平均時間等
チーフ・レジデント			時間/週
リスクマネージャー			時間/週
横断的診療班			時間/週
その他WG 等			時間/週
			時間/週
高度先進医療			件
			/週

4 取得している資格（専門医，指導医等）等

資 格 名	資格の内容（当該資格取得に必要な要件等）	取得年月日	20年度取得に○印

5 上記項目で表せない診療活動の特記事項（必要があれば記入）

3 病院運営の評価基準

実績 係数 評価点数

1) チーフレジデント、リスクマネージャー等（実績時間 / 週平均）× 2 点	実績時間 / 週平均	0	2	0
2) 横断的診療班（実績時間 / 週平均）× 2 点	実績時間 / 週平均	0	2	0
3) 高度先進医療貢献（登録者）1 件につき 10 点	件数	0	10	0
3 の実績評点	合 計			0.0

4 取得している資格の評価基準

実績 係数 評価点数

1) すでに取得している資格・件数 × 2 点	件数	0	2	0
2) 当該年度に新たに取得または更新した資格・・・件数 × 5 点	件数	0	5	0
4 の実績評点	合 計			0.0

平成20年度活動の「個人評価結果」(別紙様式3)

氏 名: ○ ○ ○ ○
 職 種: 教授
 所属(科・講座等): ○ ○ 講座

水色塗り: H21年度目標

緑色塗り: 各人が記入

黄色塗り: 部局長等が記入

灰色塗り: 評価委員会等が記入

1. 教育 領域

教育に関する目標				教育領域の“重み”配分		0.2	
1．学部教育及び大学院教育において講義・実習を可能な限り担当する。 2．授業の目的，内容を分かりやすく示した資料を作成し，学生による活用を高める。 3．学習要項に到達目標，評価方法・基準を明記し，厳格な成績評価を行う。 4．チューター等による，学生指導・支援を積極的に行う。 5．大学院生の受入れに努める。							
自己点検評価	重み a	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 評点 a×b	目標達成率%	重み加算達成点	
	0.2	206.2			c	a×c	
					70	14	
	実績に対する自己評価				目標の達成状況に対する自己評価		
	講義の内容は少しずつ洗練されてきている。学生の評価が高くないので、興味を持たせるような内容を取り入れていきたい。				さらに講義内容を興味を引くように変えていく必要がある。大学院生の教育は研究が進みある程度満足している。		
グループ長評価	実績評価コメント				目標達成評価コメント		
会員評価委	重み A	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 評点 a×b	目標達成率%	重み加算達成点	
	0.2				C	a×c	
					70	14	

2. 研究 領域

研究に関する目標				研究領域の“重み”配分		0.2		
1. 講座等グループの研究を総括し，研究活動を高める。 2. 大学院生等の論文作成指導の量的，質的水準を高める。 3. 国際学会，全国レベルの学会等で共同演者として発表。 4. 研究代表者として科学研究費補助金費等の公募に応募する。								
自己点検評価	重み a	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 評価 a × b	目標達成率%	重み加算達成点		
	0.2	42.1			c	a × c		
					50	10		
	実績に対する自己評価				目標の達成状況に対する自己評価			
	研究活動に充てる時間が殆どとれず，活動が低下している。今年度は研究論文発表が0という結果であるが，次年度は何とかしたい。				4つの目標のうち， の目標は達成できたが， 及び の主要目標は十分に達成できていない。そのため，目標達成率50%とした。			

グループ 長評価	実績評価コメント				目標達成評価コメント	
会 評 価 委 員	重み A	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 評点 a × b	目標達成率% C	重み加算達成点 a × c
	0.2				50	10

3．国際交流・社会貢献 領域

国際交流・社会貢献に関する目標				国際交流・社会貢献領域の“重み”配分		0.1	
1．地域の教育機関あるいは共団体等々の要請による授業，講演などに協力する。 2．共同研究の推進に努める。							
自己点検評価	重み a	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 評点 a×b	目標達成率%	重み加算達成点	
	0.1	40.0			c	a×c	
	実績に対する自己評価				目標の達成状況に対する自己評価		
	国際交流の実績はないが，社会貢献において，県の救急隊員の解剖学教育や看護系学校の解剖見学指導を行い，コメディカルの教育支援を行っている。他大学との共同研究では，その成果を学会発表した。				2つの目標の両方とも達成しているが，国際交流の実績がないので，目標達成率60%とした。		
グループ長評価	実績評価コメント				目標達成評価コメント		
会員評価委	重み A	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 評点 a×b	目標達成率%	重み加算達成点	
	0.1				C	a×c	
					60	6	

4．組織運営 領域

組織運営に関する目標			組織運営の“重み”配分		0.2	
医学部、病院の委員会、WGに積極的に出席して、組織の改善を図る。						
自己点検評価	重み a	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 評点 a × b	目標達成率% c	重み加算達成点 a × c
	0.2	42.0			90	18
	実績に対する自己評価				目標の達成状況に対する自己評価	
	大学および医学部組織運営においては、求められる貢献は遂行できたものとする。				学部・全学委員会ではそれなりの貢献はできたものとする。	

グループ 長 評価	実績評価コメント				目標達成評価コメント	
会員 評価 評価 委	重み A	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 評価点 a × b	目標達成率 % C	重み加算達成点 a × c
	0.2			a × b	90	18

5. 診療 領域

診療に関する目標				診療の“重み”配分		0.3	
1、地域の中核となる特定機能病院として良質の医療を提供する。 2、治験を積極的に進め、新薬の開発に寄与する。 3、診療を通して、良い医療人を育てる。 4、医療経営に配慮した診療を行う。 5、保健医療や社会資源を考慮した医療を行う。 6、病床稼働率を85%以上に保つ。							
自己点検評価	重み a	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 評価点 a×b	目標達成率%	重み加算達成点	
	0.3	47.0			c	a×c	
	実績に対する自己評価 病床稼働率も徐々に上がり、 外来数ものびている。合併症病床も順調に稼働している。				目標の達成状況に対する自己評価 病床稼働率はほぼ目標に達している。		
グループ 長 評価	実績評価コメント				目標達成評価コメント		
会員評価 評価委	重み A	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 評価点 a×b	目標達成率%	重み加算達成点	
	0.3				C	a×c	
					80	24	

6. 上記の領域評価で表せない特記事項

必要があれば記入

領域評価 集計

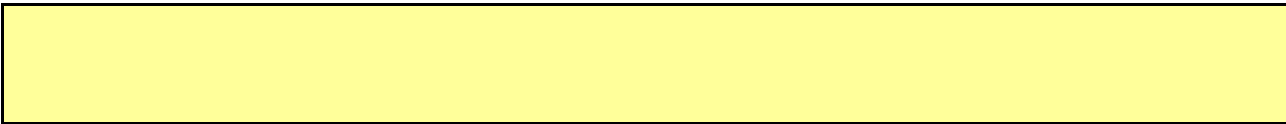
評価領域	重み A	実績評価点 点	領域段階評価 B	重み加算実績 A × B	目標達成率 C	重み加算達成 A × C
教 育	0.2	0.0			70	14
研 究	0.2	0.0			50	10
国際交流・社会貢献	0.1	0.0			60	6
組織運営	0.2	0.0			90	18
診 療	0.3	0.0			80	24
合 計	1	0.0				72

総合評価 結果

総合評価	総合評価点	実績評価点範囲	該当	達成努力評価点範囲	該当
特に優れている	5	4.0 ~		90 ~	
優れている	3	3.5 ~ 3.9		80 ~ 89	
おおむね良好	3	3.0 ~ 3.4		60 ~ 79	
改善の余地がある	2	2.5 ~ 2.9		50 ~ 59	
改善を要する	1	~ 2.4		~ 49	

総合評価 コメント

必要があれば、グループ長が記入



評価委員会 コメント

A solid gray rectangular box with a thin black border, located directly below the text "評価委員会 コメント". It appears to be a placeholder for a comment or evaluation.

氏 名：
職 種：
所属(科・講座等)：

水色塗り：H21年度目標

緑色塗り：各人が記入

黄色塗り：部局長等が記入

灰色塗り：評価委員会等が記入

1. 教育 領域

教育に関する目標				教育領域の“重み”配分		
自己点検評価	重み a	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 評価 a×b	目標達成率% c	重み加算達成点 a×c
	0					0
	実績に対する自己評価				目標の達成状況に対する自己評価	
グループ 長評価	実績評価コメント				目標達成評価コメント	
会員評価 評価委	重み A	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 評価 a×b	目標達成率% C	重み加算達成点 a×c
	0				0	0

2. 研究 領域

研究に関する目標				研究領域の“重み”配分		
自己点検評価	重み a	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 評価 a×b	目標達成率% c	重み加算達成点 a×c
	0					0
	実績に対する自己評価				目標の達成状況に対する自己評価	
グループ 長評価	実績評価コメント				目標達成評価コメント	

会 評 価 委 員	重み	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 評価点 a × b	目標達成率%	重み加算達成点 a × c
	A				C	a × c
	0				0	0

3．国際交流・社会貢献 領域

国際交流・社会貢献に関する目標				国際交流・社会貢献領域の“重み”配分		
自己点検評価	重み a	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 評価点 a × b	目標達成率％ c	重み加算達成点 a × c
	0					0
	実績に対する自己評価				目標の達成状況に対する自己評価	
グループ 長評価	実績評価コメント				目標達成評価コメント	
会員評価 評価委	重み A	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 評価点 a × b	目標達成率％ C	重み加算達成点 a × c
	0				0	0

4．組織運営 領域

組織運営に関する目標				組織運営の“重み”配分		
自己点検評価	重み a	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 評価点 a×b	目標達成率% c	重み加算達成点 a×c
	0					0
	実績に対する自己評価				目標の達成状況に対する自己評価	
グループ 長評価	実績評価コメント				目標達成評価コメント	
会員評価 評価委	重み A	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 評価点 a×b	目標達成率% C	重み加算達成点 a×c
	0				0	0

5. 診療 領域

診療に関する目標				診療の“重み”配分			
自己点検評価	重み a	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 評点 a × b	目標達成率% c	重み加算達成点 a × c	
	0					0	
	実績に対する自己評価				目標の達成状況に対する自己評価		
グループ 長評価	実績評価コメント				目標達成評価コメント		
会員評価 評価委	重み A	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 評点 a × b	目標達成率% C	重み加算達成点 a × c	
	0				0	0	

6. 上記の領域評価で表せない特記事項

必要があれば記入

領域評価 集計

評価領域	重み A	実績評価点	領域段階評価 B	重み加算実績 A × B	目標達成率 C	重み加算達成 A × C
教 育	0	0.0			0	0
研 究	0	0.0			0	0
国際交流・社会貢献	0	0.0			0	0
組織運営	0	0.0			0	0
診 療	0	0.0			0	0
合 計	0	0.0				0

総合評価 結果

総合評価	総合評価点	実績評価点範囲	該当	達成努力評価点範囲	該当
特に優れている	5	4.0 ~		90 ~	
優れている	3	3.5 ~ 3.9		80 ~ 89	
おおむね良好	3	3.0 ~ 3.4		60 ~ 79	
改善の余地がある	2	2.5 ~ 2.9		50 ~ 59	
改善を要する	1	~ 2.4		~ 49	

総合評価 コメント

必要があれば、グループ長が記入

評価委員会 コメント

平成 21 年 6 月 29 日

教員 各位
各講座分野等の長 殿

医学部評価委員会委員長（医学部長）
木 本 雅 夫

教員の個人評価の「個人評価結果」について（通知）

平成 20 年度活動実績に関する教員の個人評価において、各教員が提出した「活動実績報告書」の集計及び医学部評価委員会による「個人評価結果表」の作成が終了しましたので、お知らせします。

なお、個人評価結果は、各講座分野等の長を経由して所属教員に通知することになっておりますので、各教員の「個人評価結果表」を当該講座分野等の長宛てに一括して送付します。各講座分野等の長には、評価結果を確認の上、各教員へお渡し願うとともに、教員及び講座等の活動改善に資すよう評価結果の活用をお願いします。

記

「個人評価結果表」の見方

1. 個人評価結果は、1) 基礎医学系及び地域医療科学教育研究センター、2) 臨床医学系及び中央診療部門、3) 看護学科の各区分ごとに、さらに 教授、准教授及び講師、助教の職種別に細分した職域・職種別グループにおける当該教員の活動状況の位置付けの形で示してあります。
2. 「個人評価結果表」の下段には、職域・職種別グループに属する全教員の各評価領域における点数分布を棒グラフで示し、その中に当該教員の評価点数を ■ で示してあります。
これにより、教員個人の各評価領域における活動状況が当該グループ内でどの程度の位置であるかを知ることができます。
3. 「個人評価結果表」の上段には、紺色線で各教員の評価点数、赤色線で各教員が申告した重み配分比率（100%を 100 点に換算）、黄色線で当該職域・職種別グループの平均点がレーダーグラフで表示してあります。

紺色線と赤色線の形を比較することによって、実際の活動状況バランスと予め設定した活動領域の比率の相違が分かります（この場合、両者の点数スケールが異なるので形の大きさは問題になりません）。

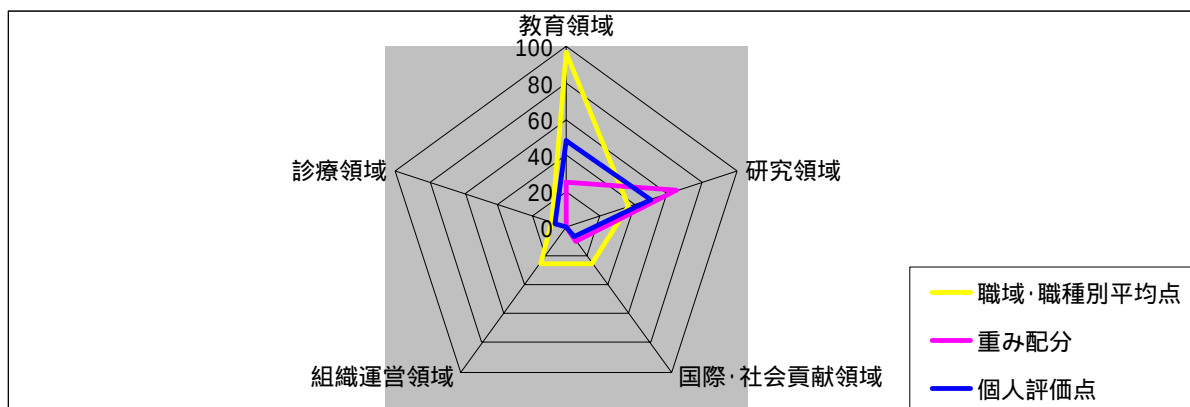
また、紺色線と黄色線を比較することによって、各自の活動状況の程度と当該職域・職種別グループの平均値との関係を知ることができます（この場合は、形の大きさが問題になりません）。

見本例

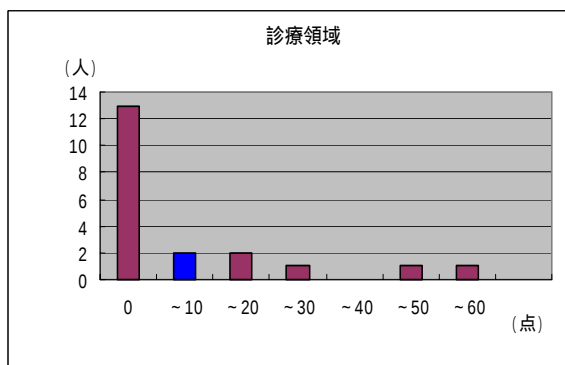
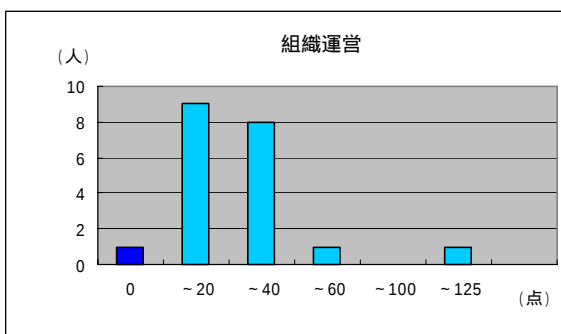
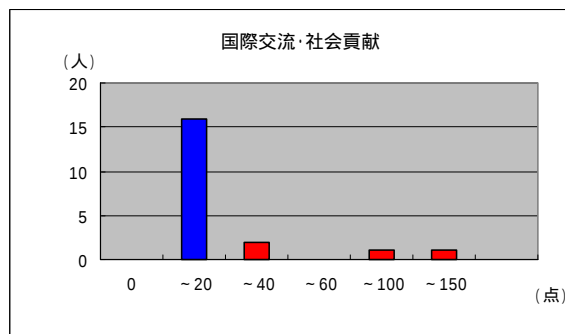
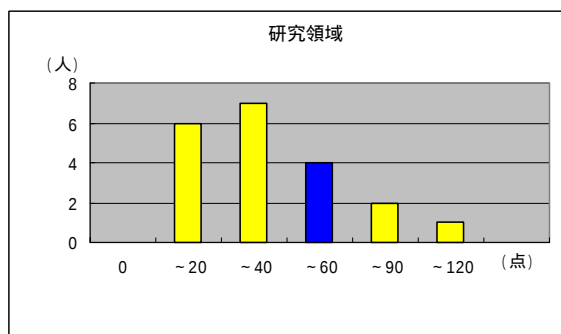
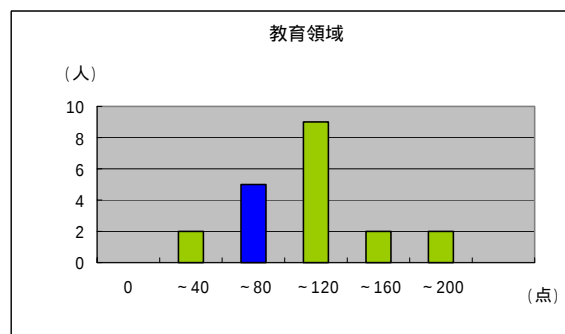
個人評価表

資料 7 - 2

氏名 ○ ○ ○ ○ ○ (基礎医学系 / 教授)



職域・職種別グループの評価分布 (基礎系・地域医療教育研究センター / 教授)



評価委員会からのコメント

個人実績評価点と重み配分のレーダーグラフを比較すると、相似形になっておらず、目標通りの活動成果が出ている領域とそうでない領域が見られる。

重み配分が低い領域の実績評価点はともかく、重み配分の高い領域で実績評価点が高いものと低いものがある。活動目標のバランスに応じた実績を残すように改善の余地があり、実績評価点の低い領域において努力が期待される。